

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
1	11/14(日) 東葛城	この方針はもう覆ることはないのでしょうか？ この地域にきた 1 つの理由として自然豊かな環境の中で少人数で学校に通わせられるからです。この選択肢が残っていてもいいのではないのでしょうか？ 少人数でも社会性は身につきます。少人数の中でどう折り合いをつけるのかを学び成長しています。この環境を存続して欲しいです。 はじめから小規模特認校を想定するにあたって廃校になるかもしれないというのはわかっていたはずなのにおかしいです。この学校のために引越して来た人もいてるんです。 それと、コロナ以前からこの話はあったと思うのですがこのような環境が今後もあると思うのですがわざわざ集約することで感染拡大することになるのではないのでしょうか？こんな機会だからこそ見直しが必要ではないのでしょうか？多人数の学校からもう少し分散していく方向を考えても良いのではないのでしょうか？	①現在は実施計画（案）の段階であり、今後も地域・保護者の皆様には十分な説明と話し合いを重ね、より良い計画の策定に努めていきます。 ②少人数を望む保護者のニーズを受け入れるためにも、小規模校を残すという選択肢があってもいいのではというご意見について、岸和田市の子どもたちに、将来にわたってより良い教育環境、教育内容を保障していく上で、小規模校のメリットよりも、説明会でご説明した適正規模・適正配置の必要性の方が大きいと判断し、今回の計画案をお示ししたものです。なお、少人数での学習指導が必要な児童・生徒に対しては、それぞれの状況に合わせて、丁寧に対応してまいります。 ③小規模特認校制度については、異学年が同じ学級で学ぶ複式学級を避ける方途として導入しましたが、今後も小規模化が進むことから、その後策定した基本方針に基づき、今回の実施計画案をお示ししたものです。 ④新型コロナウイルス感染症について、1 校及び 1 学級当たりの児童生徒数の多寡と、感染リスクの関連性については明らかにされておりません。国からは、学級規模や学校規模に関する感染対策としての特段の考え方は示されており、感染症対策と小・中学校の適正規模・適正配置の取組を結び付けることは妥当ではないと考えます。新型コロナウイルス感染症の感染対策については、学校の規模に関わらず、すべての学校において、3 密回避の徹底をはじめ、国や府のガイドラインに基づき適切に対応しています。
2	11/14(日) 東葛城	市や、国が好しいと言っている12～18学級にこだわらず、大規模、中規模、小規模といった多様性があってもいいのではないかと思います。 少ないからこそ、他学年との交流もあり、心の成長にも役立っていると思います。 学力のことだけでなく、人として大事なことを学べることも大事だと思います。 東葛城小学校をなくしたくないです。 具体的な方策案を固めてからもう一度説明会してください。 だったらいいのでは話になりません	①学校規模の多様性があってもいいのではないかというご意見についてはNo.1（通番1）－②の回答のとおりです。 ②具体的な方策案を固めてからもう一度説明会をというご意見について、今回お示ししている実施計画（案）は、教育委員会が市域全体、市民全体の教育や利益の向上、及び、これからの市の教育のあり方等を十分に見極め、公正・中立な立場から取りまとめた具体的な計画案です。お示しいただいた「具体的な方策案」が、スクールバスや校舎のレイアウトなどをさすのであれば、（仮称）学校開校準備委員会で、地域や保護者等の皆様とともに決定していくべきものと考えております。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
3	11/14(日) 東葛城	小中一貫校については反対です。2～3学級にすれば確かな学力がつくと言っていました、東葛城小は学力が高いと思います。それは、少人数でしっかりと学力がついているからだと思います。 2つ目に、この地域に小学校がなくなると、まちがいなく何十年後には、若い世代がこの地域にすまなくなり、どんどん少子化がすすみ地域が衰退していくと思います。	①小中一貫校を含む小中一貫教育については、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。文部科学省の調査では、H26年とH29年の調査ともに、導入済みの自治体のうち、95%を超える割合で大きな成果が認められる、または成果が認められるとの回答があり、教育的効果が期待できると考えています。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。なお、適正規模・適正配置は、子どもたちがこれからの社会で、しっかりと生きる力を育むために取り組むものであり、小中一貫教育の取組とともに、幅広い学力を身につけるために必要と考えています。 ②地域が衰退するというご意見について、子どもたちが地域に活気をもたらしてくれること、これからの岸和田の発展のためには、子育て世代に選択してもらい、住んでもらうことが必要であることは、多くが賛同するところだと考えます。確かな学力の定着・向上を図るための教育の充実や、児童生徒の集団規模が確保された環境の整備、老朽化した校舎の改築・改修など、魅力ある学校づくりを進めることで、子育て世代に岸和田を選択してもらえることにつながると考えており、そのためにも、今回の小・中学校の適正規模・適正配置の取組を行うものです。
4	11/14(日) 東葛城	今日は説明会を開いて下さり、ありがとうございました。 他市では小中一貫が進んでいますので、いつかは岸和田市もなるとは思っています。 ただ、この地区となると、学校までのキョリ、友達との別れ（地区で学校が分かれる）、そしてこの地区の過ソ化ですね。デメリット、メリット含め、話し合いが必要だと、今回感じました。 私は地元ではないですが、他にないこの地区の状況が好きです。お互いゆずり合いながら、良い方向へと迎うことを願います。 ☆地区の説明会なので駐車場はない、とおっしゃいましたが、元々、バスなどで通うお子さんもいる地区です（特認でなくても）。 運動場におかせてもらうなど、できないですか？ 今日はゲートボールしてましたけどねー。それでこれない人もいるみたいでした。	①通学距離や地域への影響等、地域・保護者の皆さまが不安に思われる点については、十分な話し合いを行った上で、最適解を見出せるよう努めていきます。 ②東葛城校区は他の校区と比較して広範囲のため、駐車場の必要性は高いと言えますが、道路環境やスペースの確保などの課題があり、実現には至らなかったところです。
5	11/14(日) 東葛城	小人数の今の東葛城小学校は、とてもいい環境で、たくさん親子さんが来たいと言っているのが私の周りでは居ます。現状児童の人数が毎年減っているとの事ですが、遠くから東葛城小学校に通える為に通学バス等の協力が必要です。<u>まずは特認として継続する為の努力をまずして頂きたいです</u>。多様性を認める上でも小中一貫に合意できません。 小中一貫にするなら、それまでに子ども達がスムーズにとけこめる努力。通学、放課後の児童サービスetc充実させて頂きたいです。 （下線部）→具体例をいくつか上げて、実際、特認校（東葛城）へ来たい方々に対して支援を充実させて下さい。必ず多数、来たい方々居るはず。東葛城小の存続を！！	現在、全校児童の3人に1人が特認児童という状況であり、複式学級を避けるという小規模特認校制度導入の効果があったものと考えています。しかしながら、特認校制度によってしても、東葛城小学校の児童数が大幅に増え、適正規模が確保されることは見込めないとの判断から、今回の計画案をお示ししたものです。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
6	11/14(日) 東葛城	小中一貫になると地域の方との交流がなくなってしまうし少人数だから一人一人に頼りそつてくれているからいじめは少ないと…小中一緒になると年齢差があり心配。 バス通に関しての説明について保護者の駐車場がないとは?? 廃校になった学校はどうなるのですか? 浜の方だと近隣スペースが狭いのでどうにかありますが山の方は??	①小学生と中学生が共に学校生活を送ることに対する保護者の皆様の不安点については、他市の先進的な取組における好事例も参考にしつつ、活動スペースや動線を分けるなど、児童生徒が安心・安全に通い、学ぶことができる環境を整えます。 ②駐車場については、通番4-②回答のとおりです。 ③学校施設の跡地活用については、地域の方のご意見等も踏まえ、幅広い視点から、有効に活用される方策を検討していきます。
7	11/14(日) 東葛城	①少人数では社会性、協調性、コミュニケーション能力は身につけにくく大人数ではつきやすいのでしょうか? 少人数だからこそ、意見を言い、体験し、行事を子ども達で作り上げています。大人数ではできません ②私自身の中学時代(葛城中)は荒れていて、エスケープ、暴力、破壊、タバコ、毎日辛かったです。そんな情景を幼少期から目にするとと思うとゾッとします。やめて下さい。これがより良い環境といえますか?	①小規模校ならではの取組や優位性があることは承知していますが、子どもたちには、成人するまで、また、成人した後も、限られた少人数の環境が保障されるものではありません。教育委員会としては、義務教育9年間の学校生活の中で、子どもたちが身に付けた力が、将来社会に出た時も、たくましく、生きる力につながることが何よりも大切であると考えており、そのためには小・中学校の段階から、集団規模が確保された教育環境の下で、多くの友達をつくり、時には自分と違う多様な考え方に触れ、時には意見を聞かせながら、ともに協力して課題を解決していく力をつけることが大切であると考えます。 ②いずれの学校でも、児童生徒が安心・安全で快適に学校生活を送ることができるよう、児童・生徒への指導も含め、より良い教育環境を整備していきます。 小中一貫校では、小学校低学年から中学生までが同じ施設で学ぶことにより、小学生は中学生を良き見本とし、中学生は小学生の世話をすることで、互いの自尊感情が高まっているとの例や、過去には荒れていると言われた校区においても、小中一貫校の開校以降は特に中学生が落ち着いたという事例が報告されています。
8	11/14(日) 東葛城	小学1年生の子どもが「違う小学校に行かないといけなくなるかも」と話すと、即答で「イヤだ」と言われました。今後、兄弟も3年後には小学生です。入学後に転校は子どもにとって大変負担だと感じました。その思いは受け取って頂きたい。 【意見】 スクールバスは必ずしてほしい。 どちらの中学校に通学するかは選択制も含め、考えてもらいたい。	①再編に伴い、保護者の皆様が不安に思われる点については十分にお伺いし、その解消に努めていきます。 ②スクールバスについて、単に通学距離のみを基準とするのではなく、子どもたちの通学路の安全確保の状況や地理的条件など各地域の実情を踏まえ、他の地域との均衡にも配慮しながら、必要な場合はスクールバス等を導入します。 ③東葛城校区の児童の学校選択制については、今後、地域・保護者の皆様のご意見を踏まえた上で必要に応じ検討します。
9	11/14(日) 東葛城	①現葛城中・現山滝中→小中一貫校とするため校舎の改修等をされますが、生徒数は3倍に。グラウンドがふそくします。対策は? ②小中一貫にするメリットより6才児に遠距離を強いるデメリットの方が、多いと考えます。	①校舎の改築・改修工事を行う際のレイアウト等については、(仮称)学校開校準備委員会におけるご意見も踏まえつつ、設計段階においてその内容を反映するなど、より安全で快適に過ごすことができるよう努めていきます。 ②小学校低学年の児童も安心で安全に通うことができる通学環境を最優先に考え、必要な対応を行います。
10	11/14(日) 東葛城	私の子供は2年間クラス20～30名の学校や通学したのち本人が学校を見学した上で本人で選んでこちらに転校してきました。 本人の感想は前はいつも同じクラスの2、3名で学校でも遊びもかたまってたけど、東葛城小学校では学年をこえて誰とでも遊べて本当に楽しいし、グループで固まらなくても不安じゃないし誰とでも遊んでいいんだという感覚だそうです。 親からみても自立したと思います。適正規模は思い込みじゃないですか? 選択できる岸和田市であってほしいです。	(仮称)葛城小中一貫校と(仮称)山滝小中一貫校については、小学生と中学生の学び舎を一体的に整備することで、異学年間の交流行事を積極的に取り入れるとともに、特認校を検討することで、市全域の児童生徒が選択できる環境を整えていきます。なお、学校の適正規模については、文科省の考え方や、市の審議会からの答申、教職員・保護者・児童生徒を対象としたアンケート調査等の結果を踏まえ、小中学校ともに12学級～18学級としており、これは妥当な考え方であると認識しています。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
11	11/14(日) 東葛城	なぜ葛城中学を分けて土生中学を造ったのか。 生徒数が現在の様に少なくなることは判っていたのではないの？ 目先のことだけ考えているのでは。	土生中学校が開校する前年の平成４年度の葛城中学校の生徒数は1,280人、学級数は33という学校規模で、葛城中学校だけでは必要な教室数を確保することが困難であり、大規模化による教育環境への影響も懸念されたことから新たな学校を開校したものであり、必要な対応であったと考えております。
12	11/14(日) 東葛城	東葛城小学校は特認校制度を導入しています。導入する事を決定した時点で地域としては廃校、小学校の消滅には反対を意思決定したと考えています。その地域の総意を無視するのですか？ 又、特認校のデメリット、メリットの検証はされたのでしょうか？（特に保護者の声など）	東葛城小学校における、小規模校制度導入の経緯については、導入当時の児童数が、２つの学年を合わせても13人という状況であり、複式学級化が目前に迫っていたことから、その状況を回避すべく、地域と協議を重ね、平成29年12月に東葛城地区市民協議会から小規模特認校制度の導入に関する要望書の提出を受け、その導入を決定したものです。令和3年度は、全児童69人のうち特認制度を利用する児童が23人と、3人に1人が特認児童という状況であり、複式学級は現在も生じていないことから、制度導入のよる効果はあったものと検証しています。一方、今回の取組は特認校制度の是非を問題とするものではありません。岸和田市の子どもたちに、将来にわたってより良い教育環境、教育内容を保障していく上で、小規模校のメリットよりも、説明会でご説明した適正規模・適正配置の必要性の方が大きいと判断し、今回の計画案をお示ししたものです。
13	11/14(日) 東葛城	特色のある地域の為、特認校として他地域から来られている方は切り捨てるのか？環境等が良いから選んできてくれるのに、一貫校で特認校化する意味はない！！ 人数が多い学校の問題が解消されていない中で、統合して人数が増えた学校に通うのは不安しかない。	新たな学校の開校時期については、（仮称）学校開校準備委員会の設置後5年程度を目安としており、現在特認校制度を利用して通学している児童は、卒業まで通っていただけるものと考えています。次年度以降の児童募集の際は、本実施計画（案）の進捗状況も踏まえつつ、適切な説明に努めていきます。 再編に伴い、保護者の皆様が不安に思う点については十分にお伺いし、その解消に努めていきます。
14	11/14(日) 東葛城	葛城中学校区の幼稚園はどうなるのか？ 認定こども園については一部の人の利権が絡んでいるように思えてならない。	市立幼稚園及び保育所については、「岸和田市立幼稚園及び保育所再編方針【改訂】」に基づき、再編の取組を進めています。「岸和田市立幼稚園及び保育所再編計画【前期計画】」（案）の中では、葛城中学校区にある就学前施設を再編し、民間事業者による認定こども園を開設する方向性が示されています。具体的な内容については、今後の児童数、待機児童数、民間施設の整備状況等を踏まえつつ、【中期計画】以降でお示ししていきます。 なお、民間事業者の選定にあたっては、公平性や透明性の確保、また、専門的な知見が必要なことから、教育・保育に見識のある者、民間事業者の経理に見識ある者等といった外部有識者で構成される「岸和田市幼保連携型認定こども園設置運営事業者選定等委員会」を設置し、同委員会での審査結果を踏まえ、市が設置・運営主体となる民間事業者を決定します。
15	11/14(日) 東葛城	学力の話ですが、特認児童の親です。前の学校で事情があって1～6時間目までほぼ2年間廊下に座っていました。そこで見ていた実感ですが、校区の学校は学力どころではありません。 その点、東葛はしっかり授業をし、テスト直しも1人1人見てあげることができています。 授業ができていない所、できていない所、宿題を見てあげられる所、チェックだけの所、学力に差が出るのは当たり前と思うのですが、少人数、多人数で学力に関係はない、というご説明でしたがなぜそう思われるのか教えて頂きたいです。	児童生徒一人一人に目が行き届き、きめ細やかな学習指導が行いやすいといったメリットについては、学校全体の児童数の多い少ない（学校規模）ではなく、実際に日々の授業が行われる１クラス当たりの児童数の多い少ない（学級規模）の影響を大きく受けるものと考えます。教育委員会としても「学級規模」の少人数化は、よりきめ細やかな教育指導が実施され、高い学習効果が期待されることから、望ましいものと考えており、国や府に対して、その推進を働きかけているところです。 一方、今回の適正規模・適正配置については、学年全体及び学校全体の集団規模（学校規模）の確保を目的として取組を進めています。 なお、本市の全国学力・学習状況調査等による「学力」が、学校規模の大小と相関しているという傾向は確認されていません。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
16	11/14(日) 東葛城	一貫校だとスクールバスの話が出来るのに特認だとすぐ話が出ないのか？ 5年間で話が進むと新1年生の入学が難しいですがどう考えてますか？ 小規模とかかかっているので教育委員会の人数にはたっしないのですが、本当に小規模特認校への協力はして頂けますか？ 千早赤阪村のように、仮し家をする時に補助金などをしてほしいのですがどうですか？	①適正規模・適正配置の取組による学校の再編にあたっては、教育委員会が、当該校区の全ての児童・生徒に対して、通学する学校を定めるものであるため、通学距離が遠くなる場合は、他の校区との均衡も考慮しつつ、スクールバスの導入を検討するものです。一方、特認校制度については、本来通学する学校ではなく、児童・生徒や保護者の希望によって特認校に通学するものであることから、（仮称）葛城小中一貫校についても、現在の東葛城小学校と同様、保護者による送迎や、路線バスによる通学を想定しています。 ②新たな学校の開校時期については、（仮称）学校開校準備委員会の設置後5年程度を目安としており、現在特認校制度を利用して通学している児童は、卒業まで通っていただけるものと考えています。次年度以降の児童募集の際は、本実施計画（案）の進捗状況も踏まえつつ、適切な説明に努めます。 再編が行われるまでの、東葛城小学校における小規模特認校の取組については、引き続き支援していきます。 ③家賃支援に関するご意見については担当課に伝えます。
17	11/14(日) 東葛城	小中一貫のかたちをとる上で児童・生徒にかかわる教員の数は減ると思います。これによって児童・生徒に対して目が行きとどかない事が考えられますが、その点についてはいかがお考えでしょうか。 また中学と小学の子ども達が同じ場に集まるということで年齢の非常にはなれた児童・生徒間での生徒指導のありかたなども課題になるかとおもいます。	1校当たりの教職員については、国や府の基準に基づき、学校全体の学級数に応じて配置されます。小中一貫校についても、小・中両方の学級数に基づき、教職員が配置されるため、小中一貫校になると教職員の数が減るということはありません。小中一貫校においては、小学校中学校の教職員がともに協働し、児童生徒の発達を継続して見守ることができるといったメリットがあり、本市においてもそのメリットを最大限に活かした連続性・系統性のある、切れ目のないきめ細やかな教育指導をめざしていきます。また、小学生と中学生がともに学校生活を送ることにより心配される諸課題については、他市の取組による好事例を参考にするとともに、保護者の皆様のご意見も十分にお伺いし、児童生徒の安心・安全を最優先に考え必要な対応を行います。
18	11/14(日) 東葛城	生徒数の減少のこと多くおっしゃられていますが、岸和田市が子育てに魅力的な街であれば、子供も増えるはずで。岸和田市の努力不足では？ 子供は成長過程で自分を見てほしい認めてほしいと強く思うものです。30人で1人の教師が見る環境、10人で1人の教師がみる環境。関係者の方、自分のお子さんを通わせるのであればどちらが良いと思われますか？こういった環境のいい学校があることを、岸和田市はもっとアピールすべきだと思います。 これからの未来を考えるなら子供の教育環境もっと大切にすべきです。	①これからの市や各地域の発展のためには、子育て世代に選択してもらい、住んでもらうことが必要です。そのためにも、確かな学力の定着・向上を図るために教育を充実することや、児童生徒の集団規模が確保された環境の整備、老朽化した校舎を改築・改修することが、魅力ある学校づくりを進める上で不可欠であり、そのためにも、適正規模・適正配置の取組は重要であると考えます。 より良い教育環境の整備と学校教育の充実を図ることで、市全体の魅力づくりにつなげていきたいと考えています。 ②学級のさらなる少人数化の必要性は認識しており、国や府に対して30人学級の実現を要望しています。 一方、グループに分かれての学習など、集団学習の必要性から、学級の人数が少なければ少ないほど良いというものではなく、また、本来は、住む地域に関わらず、市内のどこの学校であっても、一定の学級規模であることが求められると考えています。
19	11/14(日) 東葛城	話を聞いていても、規模適正化によって子どもたちのより良い教育が実現出来るとは一切感じなかった デメリットを聞いても距離が遠いといじかいておらず、とうてい全てのデメリットを考えたとは考えにくい 正直デメリットをまず今日のような説明会をよく開いたなと思いました。 進める方がこのように浅はかだと反対せざるをえない 今の教育委員会の考えでは、絶対的課題である少子化もかいつできない	説明会の際は、課題として、通学距離・通学環境の変化や、地域コミュニティへの影響、小中一貫校においてはチャイム時間の違い等を例として挙げましたが、その他にも地域・保護者の皆様が不安に思う点について、今後も十分にお伺いし、その解消に向けて努めていきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
20	11/14(日) 山滝	計画方針については、現在マイナスのことしかなく、実施後はプラス面しか記入されていない気がします。 課題はいろいろあると思います。 課題点について、もう少し詳しく説明の場を作るべきです。多様な考え方はそれぞれの人があると思います。 一貫教育にすることで、メリットありますか？一貫教育にして、学力は上がりますか？（良い所もあります。現況でも） 山滝中学校のキャバで、おぎなえますか？和泉市はキャバがあって、運営を開始しています。岸和田市は和泉市のまねですか？運動場は大丈夫ですか？ 地域、父母は不安あると思います。市として、説明会でもっとほりさげた説明を行うよう努力して下さい。 一貫教育を行える、教員は確保出来るんでしょうか？	①地域・保護者の皆様が不安に思われる点や課題とされる点について、今後も十分な話し合いを重ね、その解消に向けて努めていきます。 ②小中一貫校を含む小中一貫教育については、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。文部科学省の調査では、H26年とH29年の調査ともに、導入済みの自治体のうち、95%を超える割合で大きな成果が認められる、または成果が認められるとの回答があり、教育的効果が期待できると考えています。一方、課題が認められるとする割合については、H26年の調査では77%であったものが、H29年では53%に減少しており、各自治体において課題を解消するための取組が構築されてきたものと考えます。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。また、小中一貫校の設置にあたっては、国の基準による面積基準等を適切に満たすとともに、児童生徒が安心・安全に過ごすことができる環境整備を図ります。 ③小中一貫校における教職員については、国や府の基準に基づいて必要な人数が配置されますが、小・中両方の資格を持つ教職員を積極的に充てていきます。
21	11/14(日) 山滝	中央、浜小学校の統廃合が先ではないのか！ 物理的、環境的に考えても、比較的早期に実施できると思われませんが、なぜ後回しになるのかが、理解できません。	今回の第1期計画(案)の対象となった地域は、小学校、中学校とも適正化が必要な小規模校があるのに対して、都市中核地域では、適正化が必要な小規模の中学校が存在しないため、後順位としたものです。 中央小学校・浜小学校の適正化についても、第1期計画（案）の完了後に着手するのではなく、具体的な内容がまとまった段階で第2期計画（案）を策定し、公表していきます。
22	11/14(日) 山滝	おまかせします。	ご意見として承ります。
23	11/14(日) 山滝	0～15才までとなっているが、授業中、テスト中の子供の声、泣き声などの対策はどうするのでしょうか？ うちには2才～16才までの子供がたくさんおり、テスト勉強中は夜中にしたり朝早く起きたりしています。家の中でも対策しないといけない中、学校ではどう対策していくんでしょうか？	同一敷地の整備であっても、建物やフロアの区別により、就学前児童、小学生、中学生が、支障なく学び、快適に過ごすことができるよう、設計段階から様々な工夫を図ります。
24	11/14(日) 山滝	少人数なら一人一人を見てくれるのでこの校区が良くてここに住んでいます。少ないからといってソーシャルスキルがない子供ではありません。 人が増えるということはその分人間関係で問題が起こると思います。今の子供たちが楽しくすごせているのならこのままでもいいと思います。 適正規模にしても学級見込数変わらないでしょ？ならば余計なことしないでいいと思います。 中学生がテスト中に0才児が泣いているとかもありえるって事ですか？それは普通に考えてムリでしょ？	①小規模校にもたくさんのメリットがあることは承知しています。その一方でクラス替えができないため、人間関係に問題が生じたときにその解決が難しくなる、多くの多様な意見に触れて学習を深めていく集団学習の展開が制約を受けるなどといった、小規模校ゆえの課題があります。小規模校のメリットよりも、学校の適正規模を確保する必要性の方が大きいと考え、今回の適正規模・適正配置の取組を進めています。 ②（仮称）山滝小中一貫校については、再編後も適正規模の学校に満たない可能性もあることから、特認校制度の実施や、施設一体型小中一貫校のメリットを活かした異学年交流行事を多く取り入れることで、多様な考えに触れる機会を創出できるよう検討していきます。 ③認定こども園を含む、施設一体型小中一貫校にかかるご質問については№4（通番23）の回答のとおりです。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
25	11/18(木) 常盤	刻々と現状が動くなかで、未来にむけてこういう案を考えて頂いていることはありがたいと思います。 今日の意見にもありましたように「バラ色の計画」だけでなく、これを実施するにあたりデメリットがどれだけあるのかをリサーチして頂いて、そのデメリットを超える（案）であれば賛同する方が増えるのではないかと思います。 デメリットとは反対意見ととらえ、納得のいく説明をお願いします。	適正規模・適正配置に伴う再編の課題として、通学距離が長くなること、地域コミュニティに大きな影響を及ぼすことを挙げ、前者については、必要に応じてスクールバスを導入すること、後者については、教育を優先にした取組を進めるとしたうえで、地域への影響については、市とともに、地域の皆様と協議し、地域に協力していく旨をご説明しました。また、小中一貫教育についても、市民の皆様から、その効果そのものを疑問視するご意見や、異学年が同じ敷地や校舎を共有することによる問題点のご指摘などをいただき、前者について、先進市町村では多くの効果があると評価していること、後者については、時間や場所を分けるほか、他のスペースの活用の可能性についても検討する旨をお答えしたところ です。 これ以外にも、今後、地域・保護者の皆様との話し合いの中で、再編や小中一貫教育に関する様々な課題のご指摘があるものと思われますので、それらについても、しっかりと対応策を講じてまいります。
26	11/18(木) 常盤	丁寧にご説明いただき、ありがとうございました。 いじめ、不登校、学テの結果などに関しては小中一貫にしたからといって解決するもののでしょうか？ 家庭環境が大きな原因ではないですか？	学力課題や、いじめ・不登校等の問題の背景にはさまざまなことがあると考えられることから、小中一貫教育が全ての解決策とは考えておりません。また、御家庭に協力いただく必要があるとも考えております。ただ、小中一貫教育によって、これらの問題の解決につながる教育的効果があると報告されていることから、本市においても小中一貫教育を推進してまいります。
27	11/18(木) 常盤	説明ありがとうございました。 質問を受けていただけましたが、明確な返答がなく、残念でした。 今回の計画については賛同することができません。 よりくわしい説明や、様々な検討をよろしくお願い致します。	現在は、実施計画（案）の段階であり、今後も地域、保護者の皆様と十分な話し合いを行い、より良い計画の策定に努めていきます。 ご意見・ご質問については、メール等でも随時受付していますので、どうぞご利用ください。
28	11/18(木) 常盤	人口推計について、根拠は？ 社人研？示してほしい。	人口推計については、住民基本台帳による人口を基に、コーホート要因法により市が推計したものです。具体的には、住民基本台帳による人口を基に、住民基本台帳が電子化された昭和59年10月から現在までの出生数・死亡数・転入数・転出数・転居数の各々の平均値を、小学校区ごとに、年齢別、性別で算出し、その値を現在の人口に加算して、将来推計値を算出しています。 児童生徒数推計については、住民基本台帳による各校区の0歳～15歳までの人口を抽出し、その数が人口移動なく、各校区で毎年1歳ずつ年齢を重ねていくものとして算出しています。
29	11/18(木) 常盤	小中一貫についての成功例は？抽象すぎる！！	小中一貫教育を実施している市町村の調査では、学習意欲が向上したが80%、中学校への進学に不安を覚える児童が減少したが96%、いじめが原因である問題が減少したが73%、不登校が減少したが60%など、小中一貫教育に成果があると回答しています。
30	11/18(木) 常盤	「新たな教科」抽象すぎる！！	例として、岸和田市の豊かな自然や文化などを活かして、小中の9年間を通じて、総合的な学習の時間を活用して、「新たな教科」を導入するとご説明しましたが、詳細な内容については、今後、小中一貫教育推進会議において協議を重ねてまいります。
31	11/18(木) 常盤	「小中一貫教育推進会議」のメンバーは？	小中学校の校長会代表、教頭会代表、教員代表と、教育委員会事務局、また、必要に応じて学識経験者に参加いただいて開催しています。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
32	11/20(土) 浜中央	本日は説明会を開いていただきありがとうございました。 児童数が減っている、小規模化してきて、主体的、対話的、深い学びができにくくなっているというお話がありましたが、35人学級よりも今の少人数の方が子ども達同士の発言もしやすく、職員一人ひとりに手厚い教育ができるのではないのでしょうか。 地域の特色、つながり、今まで大切にしてきたことがないがしろにならないのか気になります。各校が大切にしていることを話し合いで折り合いをつけていけるのでしょうか。課題やデメリットはないのでしょうか。 やってみたがダメだったでは、子の安心、安全な教育が保障されるのかと不安です。 放課後の校庭の使い方を教えてほしいです。部活があるので、小学生が使えなくなるのでは。	より少人数の学級の方が子どもたちの発言の機会も多く、きめ細やかな教育を行いやすいとのご意見ですが、今回の適正規模の取組は学級ではなく学校の小規模化の是正を目的としています。 文部科学省が示す、新しい学習指導要領では、学校で学んだことを子どもたちの将来につなげていくために、主体的・対話的で深い学びを重視しており、そのため教育委員会としては、集団規模が確保された教育環境の下で、多くの友達をつくり、時には自分と違う多様な考え方に触れる機会をたくさん創ることが大切であると考え、今回の適正規模・適正配置の取組を進めているところです。 学校の再編により、地域・保護者の皆様が、地域のコミュニティや、これからの教育活動について不安に思われる点については、今後也十分にお伺いし、その解消に向けて努めていきます。 なお、施設一体型小中一貫校におけるグラウンド使用のあり方については、他市の好事例を参考にしつつ、時間帯を分けるなど、子どもたちの安心・安全を最優先に考え、検討していきます。
33	11/20(土) 浜中央	浜小学校での、独自の学習や、地域性を活かした教育活動大切で、良い所が多く有るので、残していただきたいです。 町会や子供会活動も含みます。校区が一つになればくずれるように思います。 一緒に子ども達のためにがんばりましょう。	これまで地域の皆様に支えられてきた各学校において、子どもたちの豊かな心を育むために実践してきた、地域性を活かした特色ある教育活動については、再編後の学校においても引き続き積極的に取り入れていきます。 また、町会活動や子供会活動等地域のコミュニティ活動のあり方については、地域の皆様のご意見や考え方を尊重した上で、市長部局と連携し、引き続きその活動を支援していきます。
34	11/20(土) 浜中央	東葛を小規模特認校に定めたのにこの統合をどう考えているのか？ 「適応力」だとか言うが、少人数ならではの活発な討論などある。 大規模になると陰にかくれて結局話をしない子供も多くでてくる中で、少人数ならではの行き渡った教育ができる。合併した後の学校で今のような特認校の維持は不可能と考える。 又、小中一貫と同じ囲いの中で9年過ごすことでそれこそ次のステップに進む際に適応できなくなるのでは？とも考える。 小→中への環境変化に適応する能力をつけるのも教育の一つである。 岸和田の学力が低いことを「中1ギャップ」などの言葉で説明されていたが、全国どこも同じ条件の中、この説明は成り立たない。	東葛城小学校の小規模特認校については、導入当時の児童数が、2つの学年を合わせても13人という状況であり、複式学級化が目前に迫っていたことから、その状況を回避すべく、地域と協議を重ね、平成29年12月に東葛城地区市民協議会から小規模特認校制度の導入に関する要望書の提出を受け、その導入を決定したものです。その結果、現在でも複式学級化は回避されており、教育委員会としても導入効果はあったものと考えています。一方、東葛城校区の児童数は今後増加が見込めず、特認校制度をもってしても小規模化が改善されない中で、一定の集団規模が確保された教育環境を整えていくことが必要であると考え、今回の案をお示ししているものです。 新たな特認校については、各地域特性を活かした様々な教育活動の展開が考えられ、その内容については、各地域の皆様や保護者の皆様のご意見を踏まえた上で検討していきます。 小中の環境の変化に対応する力を身に付けることについて、その必要性も十分認識しております。今回は、その環境の変化に対応できない状況がさまざまあることを大きな課題としてとらえて、小中一貫教育を推進しようと考えています。変化への対応力については、学校教育におけるまた違う場面で体験させながら身に付けることができると考えています。 また、学力は、学校教育はもとより、家庭や地域の状況など、子どもたちを取りまく様々な環境が影響しており、「中1ギャップ」だけが全ての原因とは考えておりません。学力向上については、さまざまな取組を総合的に行っていく必要があります。その一つとして、小中一貫教育が有効であると考えております。
35	11/20(土) 浜中央	プレゼンテーションが長すぎます。大学教育では10-15分程度、スライドは8-12枚程度と教えられています。今回のスライド前半は25枚、後半は13枚、時間は前半は25分、後半は9分であった。 後半は許容できると考えるが、前半はベルが何10回も鳴る状態である。大学の卒論発表はA4、30-50枚で7.8分です。市の実施計画は19枚しかない。5分でできる。 明日の3校区の説明会までに訂正して欲しい。	今回の地域説明会は、教育委員会が取りまとめた実施計画（案）を市民の皆様によりわかりやすく、丁寧な説明を行うために実施しているものです。5分間では必要な内容を十分にお伝えすることが難しく、必要な時間であったと考えています。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
36	11/20(土) 浜中央	20日市立公民館での説明会に行きました。対象外の校区からの参加なので、発言をひかえましたが、この市がやろうとしている計画の主旨、意図がわかりませんでした。少人数、小規模が問題である。ならそれに対してもっと説得の話が必要でしたね。会場のどなたかが言われたように、特認校の東葛城小のよさに少人数の事も書いてありました。なのにそれに触れずに1学年1クラスが問題を強調されました。浜小の保護者の発言からも、少人数だからこそ学校中の児童の名前がわかり、先生にいてねいに教えてもらい、大変よかったと言われましたね。 幼稚園問題では、希望者が少ないことに対して市が何か行動したのかの問いに言いわけでしたね。3才児保育・給食を小学校から運んでもらい、幼稚園児の親のねがいに答えていないので、つい私からも発言させて頂きました。いい事づくめの天神山の幼小教育が、すすまないのでしょうね。今回の説明会は何回聞いても納得できません。勝手にすすめないで下さい。	小規模校ならではの取組や優位性があることは承知していますが、子どもたちには、成人するまで、また、成人した後も、限られた少人数の環境が保障されるものではありません。教育委員会としては、義務教育9年間の学校生活の中で、子どもたちが身に付けた力が、将来社会に出た時も、たくましく、生きる力につながるものが何よりも大切であると考えており、そのためには小・中学校の段階から、集団規模が確保された教育環境の下で、多くの友達をつくり、時には自分と違う多様な考え方に触れ、時には意見を闘わせながら、ともに協力して課題を解決していく力をつけることが大切であると考えます。 幼稚園に関しては、保護者の希望に応えるため、アフタースクールを拡充してきたこと、給食については、衛生面、安全面や、アレルギー対応、3歳児への特別な配慮の必要性などから、導入には至らず、引き続き検討していることなどを説明させていただきました。 今後も引き続き十分な説明と話し合いを重ね、市民の皆様の不安の解消に努めていきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
37	11/21(日) 天神山	小規模だから、コロナ禍に行事を全て出しました。 適正規模の案が出たのはコロナが広がる前だったのでは無いかと思うんですが…今は、席も離して授業を受ける時代なのに、あえて人数を増やす必要があるのか。 コミュニケーション能力は、立て割りで1～6年生、そして幼稚園も含め仲良くできる学校なので、中学校にいてもすごくみんな仲良しです。小規模だからこそ、全員の顔と名前もわかり、人に対する思いやりが出来る人格作りが出来るき帳な場をうばわないで欲しい。 小・中学校では、学校生活の流れも違うし、体格も違う中で、どうやって学生生活をおくれるのかが不明です。（中学生はテスト期間もあります）小学生は静かにしとくんですか？	①新型コロナウイルス感染症について、1校及び1学級当たりの児童生徒数の多寡と、感染リスクの関連性については明らかにされておりません。新型コロナウイルス感染症の感染対策については、学校の規模に関わらず、すべての学校において、3密回避の徹底をはじめ、国や府のガイドラインに基づき適切に対応しています。 なお、感染症対策において、一定の空間内での人の密度のあり方については、学校だけでなく、あらゆる施設や交通機関などに共通するものであり、必要であれば、国において統一的な基準が定められるべきものです。感染症対策の観点と小・中学校の適正規模・適正配置の取組を結び付けることは妥当ではないと考えます。 また、少人数で密を防ぐというコロナ禍での学校における緊急対応を、今後、平常時においても継続すべきか否かについては、教育の基本に関わることであり、国において一律に判断・決定すべきものと考えます。 ②「多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて豊かな人間関係を築き、社会性や協調性、コミュニケーション能力等を身につける」ことは、学校の「異年齢集団」の中であると、「同学年集団」の中であることを問わず、必要なことと考えています。 また、同学年の集団規模については、クラス替えの可否の点に加えて、学習指導要領等に基づき、学年ごとに教育課程が編成されていることから、同学年においても一定の集団規模が必要であると考えています。 ③小中一貫校の整備にあたっては、先進事例を参考に、例えば、普段学習する普通教室は、小学生と中学生の動線を分けて配置する一方、施設一体型のメリットである異学年の交流については、校舎の中央部分に専用の交流スペースを設けるなど、小中一貫教育の実施に適した安全性の確保を図るとともに、児童生徒が快適に過ごすことができるようにします。
		①1.5kの通学をほぼ全員が徒歩で通わなければならない小学生が他校にありますか あるそうですがほぼ全員が通っていますか（天神山小のような1.5km歩いて） ②天神山小学校がなくなる（葛中に移る）ことで、ますます天神山校区から若い世代に転出する人が増加すると考えられるがどう考えるか ③「広報きしわだ」では、適正化計画説明会としか書いておらず、岸和田市民のほとんどは何が行われようとしているか知らないのもっと具体的に例えば「葛城中学校の敷地に3つの小学校と葛中全てを統合した小中一貫校をつくる計画（案）」についての説明会をすると知らせてください また意見を広く寄せてくださいと広報してください（要望）。これは岸和田市全体の問題として考えていますか ④今まだ使える小学校校舎を取りこわすのは市の税金のむだ遣いです（意見） ⑤小規模校・大規模校のメリット、デメリットを具体的に挙げてください（要望） ⑥小中一貫教育のメリット、デメリットを具体的に挙げてください（要望） ⑦小中一貫校のメリット、デメリットを具体的に挙げてください（要望） （①～⑦）全て公開し、回答もしてください	①児童の大半が1.5kmの通学距離となる学校区は現在ありません。学校再編にあたり、一部の地域において通学距離が遠くなることは避けることはできず、保護者の皆様が不安に思われるお気持ちはよくわかります。このことについては、学校の小規模化の課題よりも今の学校数や通学距離を優先するのか、通学距離が遠くなったとしても学校小規模化の課題を解決し、教育環境、教育内容の充実を行うことを優先するのか、の選択の問題です。教育委員会としては、学校小規模化の課題解決が優先であると考えており、その上で負担が大きくなることについては、それが限度を超えた負担となっているのかを地域・保護者の皆様とご議論し、そうであればスクールバスの導入や通学路の安全確保など、必要な対策を講じるとの判断です。 ②本市人口の社会減を分析したところ、30代の子育て世代を中心に市外への転出がみられたと市長部局が分析しています。教育委員会としては、子育て世代の社会減を減らし、社会増へつなげていくためには、教育環境の充実が重要であると考えています。小規模化している学校をそのままにして、現在ある学校の数を維持するのではなく、適正規模・適正配置及び小中一貫教育の取組の推進により、より魅力ある学校づくりを進め、子どもたちにより良い教育環境、教育内容を提供していくことが、子育て世代の社会減を減らし、社会増につながるものと考えています。 ③適正規模・適正配置の取組は、対象となった学校だけでなく、広く市民全体にご理解いただくべき課題であることから、実施計画（案）の説明会を市内各所で計20回実施したものです。今後も市民の皆様にご丁寧な説明に努めるとともに、ご意見・ご質問の受付についても広く周知させていただきます。 ④仮に、閉校となった校舎の取扱いについては、地域・保護者の皆様のご意見も踏まえ、幅広い観点から、有効に活用される方策を検討します。 ⑤教育委員会が、教職員・保護者・児童生徒に対して行ったアンケート調査において、学校規模の違いによるメリット、デメリットについて多く出された意見は以下のとおりです。 ■6～11学級（小規模校）のメリット（良いところ） ○児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われている。 ○学校が一体となって活動しやすい。 ○運動場や体育館、特別教室、教材備品等余裕を持って利用できる。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
38	11/21(日) 天神山		○色んな学年の児童生徒とふれあう機会が多い。 ■ 6～11学級（小規模校）のデメリット（課題があるところ） ○クラス替えができないので、人間関係が固定化している。 ○集団による競い合いや、切磋琢磨する機会が少ない。 ○校務分掌や、PTA活動等の負担が大きい。 ○中学校においては、部活動に制約があり、選択の幅が狭い。 ■ 19～24学級（大規模校）のメリット（良いところ） ○クラス替えによって人間関係がふくらみ、友達がたくさんできる。 ○学校全体に活気がある。 ○運動会や学習発表会等の学校行事が盛り上がる。 ■ 19～24学級（大規模校）のデメリット（課題があるところ） ○運動場や体育館が過密になり、活動に制限が生じやすい。 ○同学年でお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒のつながりが弱い。 ○何か問題があったときに、先生に気付かれにくい。 ⑥小中一貫教育のメリット・デメリットについては、以下のようなものが挙げられています。 （メリット） ○中学校への進学に不安を感じる子どもが減少する。 ○いわゆる「中1ギャップ」が緩和される。 ○小・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まる。 ○小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まる。 ○小・中学校共通で実践する取組みが増える。 ○不登校の児童生徒が減少する。 （デメリット） ○小学校と中学校の組織文化や習慣の違いが大きく、調整する場合は時間がかかる。 ○小学生と中学生の交流が増えるほど、小学校高学年のリーダーシップや自主性が養われにくい場合がある。 ○小中合同の研修時間や、小中の教職員間での打合せ時間の確保が必要。 ○教職員の負担感・多忙感が増す。 ○施設分離型の場合は、児童生徒間の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保が必要。 ⑦小中一貫校のメリット・デメリットについては、上記のものも含めて、下記のようなものが挙げられます。 （メリット） ○異年齢とのコミュニケーションの機会が増える。 ○上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まる。 ○小学生の中学生へのあこがれや中学生の小さい子への思いやりが育まれる。 （デメリット） ○同じ施設内の学年数が増えることで、体育館や運動場等1つしかない施設を利用する場合に調整が必要。 ○学校の規模が大きくなり、管理職の目が届きにくくなる恐れがある。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
39	11/21(日) 天神山	児童数の少ない小学校となりましたが、一人一人の児童をしっかりと育てていくよい小学校（天神山小）となっています。少人数であることのメリットはとても大きいです。統合で人数が増えてもメリットはありません、また一昔のように学級崩壊が起こると思います。 中学校（葛城中）でも10年ほど前、授業に参加しない生徒が増え、担任の先生が体調を崩されて次々と退職し、三年生の担任がすべて常勤講師の先生ばかりでした。安定した学校教育の確保こそが最優先にされるべきです。小中一貫校のメリットはありません。 部活動の指導は外部の団体、指導者へという流れなので、統合のメリットにはなりません。 今回の案には反対です。	小規模校のメリットも承知していますが、教育委員会としては、そのメリットよりも課題解決を優先とし、適正規模・適正配置の取組を進めていく必要があると考えます。 また、小中一貫校を含む小中一貫教育については、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。文部科学省の調査では、H26年とH29年の調査ともに、導入済みの自治体のうち、95%を超える割合で大きな成果が認められる、または成果が認められるとの回答があり、教育的効果が期待できると考えています。一方、課題が認められるとする割合については、H26年の調査では77%であったものが、H29年では53%に減少しており、各自治体において課題を解消するための取組が構築されてきたものと考えます。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。 問題行動に対しては、いずれの学校においても、児童・生徒に寄り添い、しっかりと指導してまいります。 部活動については、外部の力を導入するにしても、教員が教育の一環として適切に指導していくことが必要です。
40	11/21(日) 天神山	特認校とは何か 一部のエリートを育てるためにつくるのか？まさに教育に差別を持込む制度であると思われる	「特認校」とは、住んでいる校区に関わらず、市内全域から通うことができる学校のことです。 特認校の特徴としては、それぞれの地域特性を活かし、特色ある教育を実施できることが挙げられます。例としては、自然を活かした体験学習や、英語・体育・ICTといった、分野に特化した教育、また地域住民や近隣大学といった、学校外の人々とのコラボレーション、少人数での教育の実施といった取組があります。 特認校における具体的な取組内容については、地域・保護者の皆様のご意見をお聞きしながら、検討していきます。
41	11/21(日) 天神山	小中一貫校は、ひずみがたくさんあります。よく考えて下さい。これで説明会を終わらず、地域住民が理解できるまで説明会を開いて下さい。必ず 小中一貫校でないといけなのですか。隣接型、分離型なども考えてほしい。 決定は、市長、教育長が決めるんですか議会ですと言っていますが議員の方々が小中一貫校のことを理解されているのか不安です。もっと住民の意見も聞いて下さい。	小中一貫校を含む小中一貫教育については、No.3（通番39）の回答のとおりです。 取組を進めるにあたっては、地域・保護者の皆様が不安に思われる点についても十分お伺いした上で、その解消に努めていきます。 岸和田市小中一貫教育基本方針は市議会にご報告し、ご審議をいただいたところであり、引き続き、議員の皆様への十分な説明に努めていきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
42	11/21(日) 旭太田	この計画に反対です。 小学校が廃校になると過そ化が固定化してしまいますし、コミュニティがなくなります。温暖化で災害も増えているので避難所としての小学校が必要です。	学校は、教育活動以外に、防災や地域コミュニティの活動拠点としての機能を有していることは承知しており、地域の学校が統合・再編の対象となることによる地域コミュニティや防災等への影響を心配されることは十分に理解できます。 一方、学校は、何よりもまず、子どもたちの教育の場としての機能が最優先されるべきものであり、そのために、適正規模・適正配置の取組を進める必要があると考えます。その結果、地域コミュニティや避難所機能等に及ぶ影響については、地域の皆様との十分な協議を踏まえた上で閉校後の校地・校舎のあり方も含め、市長部局とともに検討していきます。
43	11/21(日) 旭太田	現在は旭小学校・土生中学校区で通学上、校区が変更されると、通学時間、距離が増えてしまう事と、地域コミュニティも土生町会に属している為、変更には反対です。新一年生から適用にする、又は、選択性にする等の対応をお願いします。 旭小学校を卒業した場合は、土生中へ進学できるようにしていただけない場合は、実家に住所を変更する等の対応を行います。校区の変更にならないように一貫校への変更を希望します。	通学する学校の選択制など、ご意見として承ります。 なお、新たな学校の開校やそれに伴う通学区域の見直し等は、計画が定まって（仮称）学校開校準備委員会が設置されてから、概ね5年後と想定しています。
44	11/21(日) 旭太田	小中一貫型小・中学校の施設形態で施設一体型がベストとの説明だったが施設隣接型もあるのはどうしてなのか。物理的条件は校舎建替等でクリアできるのでは？ 市全体として一体型、隣接型が地域によりちがった場合、差異が出てくるのではないのでしょうか。	義務教育9年間の系統性や連続性、めざす子ども像の共有といった小中一貫教育の大きなねらいを考えると、小中の職員室が一体化できることや、教員の相互乗り入れの際の移動時間が短縮できるなど、「施設一体型」のほうがさらに効率的で、高い教育効果が期待できるものと考えています。 一方、中学校と小学校の位置関係や、児童生徒数の状況、敷地面積等の課題により、施設一体型としての整備が困難な校区もあります。 「施設一体型」「施設隣接型」「施設分離型」のいずれによっても、小中一貫教育の十分な効果が得られるよう、「岸和田市小中一貫教育推進会議」等を通じて引き続き検討していきます。
45	11/21(日) 旭太田	小中一貫校にしていこうとすることで本当に子ども達にとってメリットがあるのでしょうか？不安がいっぱいです。子どもの育ちの面においても…今この時期にとりいれていくのも疑問です。	本市における小中一貫校は初めての取組であり、保護者の皆様が疑問や不安を抱かれることは理解できるところです。 全国的には小中一貫校が増えてきており、先日訪問した視察先では、その効果として、小学校低学年から中学生までが同じ施設で学ぶことにより、小学生は中学生を良き見本とし、中学生は小学生の世話をすることで、互いの自尊感情が高まったといったことや、過去には荒れていると言われた校区だが、小中一貫校の開校以降は特に中学生が落ち着いたといったお話しも伺っているところです。 また、当初一貫校の課題とされていた点についても、階段の仕様を小学校低学年の児童に合わせる、児童と生徒の動線を分ける、小中学校の職員室を一つにするなど、様々な工夫により解消されたという多くの対応策をお聞きました。 今後も、他市の好事例を多く視察・研究することで、本市における小中一貫教育及び小中一貫校をより良いものにしていくよう努めていきます。
46	11/21(日) 旭太田	小中一貫校のモデル校について、具体的にできる施設（体育館やグラウンド、校舎等）や、その広さがわかるものがほしい。 小中一貫校になった場合、給食はどうなるのか？ ゆっくり市民の意見をきいて、進めて下さい。お願いします。	旭太田校区に関係する（仮称）葛城小中一貫校は、現在の葛城中学校地の活用を予定しています。現葛城中学校の敷地面積は、22,209㎡（うち、建物敷地が16,459㎡、運動場敷地が5,750㎡）、体育館は1,138㎡となっています。 老朽化している校舎もあることから、新たな学校が開校する際は、校舎の建替や改修工事等を行い、児童生徒が安心・安全で快適に学校生活を送ることができる施設整備を図ります。 給食については、今後、保護者の皆様のご意見も踏まえつつ、検討していきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
47	11/21(日) 旭太田	今回は、説明会を開いていただきありがとうございました。内容は聞かせてもらったとおり、よくわかりました。やはり、たくさんの方からあったように、境目に住んでいる人たちは、調整区域で進めていただきたいと思います。いろいろな行政側の事情はあるでしょうが、大切なのは、子どもたちの希望、思いではないでしょうか。今まですごした友だちと、離れて、中学に進むのは（大人の事情で、そうになってしまうのは）かわいそうに思います。ぜひ、ご検討ください。	調整区域の設定や激変緩和策などについても、地域や保護者の皆様のご意見をお聞きしながら、幅広く検討してまいります。
48	11/21(日) 旭太田	義務教育期間（小・中）は、現在の、学校での卒業ができますよう、配りよしていただきたい。	学校の小規模化に伴う課題を解消するためには、条件が整った段階で一斉に見直しを行うことが望ましいと考えますが、今後、地域や保護者の皆様のご意見を伺いながら、必要な対応を検討してまいります。
49	11/21(日) 旭太田	この計画において、まず第一に、子供の気持ちを一番に考えてもらいたいです。 小学生と幼稚園の子供がいるのですが、下の子供が、小学生の間に葛城小中一貫校が、できるみたいですが、その時は既に、従来の旭小学校に入学しているので、そのまま、その学校を卒業し、仲間と共に土生中学校へ進学させて下さい。 上の子でいえば、小学3・4年でようやく学校生活にも慣れ、何度かのクラス替えをへて、たくさんの友達ができています。この段階で転校というのは本当に考え難いことです。5・6年では林間や修学旅行、最後の運動会等、様々な行事を通し、仲間意識が生まれ、よりいっそう団結力が高まります。そして、その仲間と共に中学校へ進むことにより、他の小学校からの子供達とも徐々に打ち解け、仲間になっていくのではないのでしょうか。 中学進学時点で、多くの友達と別れ、新たな中学へ行くことは、不安でしかありません。今は昔と違い、多くの子供がスマホを持ち、ライングループをつくっています。早くて小学3年生。中学では、持ってあたりまえの環境です。 そんなグループの中に入っていくことは、より、困難を強いられることだと思います。もし、転校によっていじめが発生した場合、市は責任をとっていただけるのでしょうか？市の勝手な計画で、子供が今まで築き上げてきた、友達との関係性をこわされたり、子供の進路を変更されたりすることは、あってはならないことだと思います。	調整区域の設定や激変緩和策などについても、地域や保護者の皆様のご意見をお聞きしながら、幅広く検討してまいります。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
50	11/22(月) 山直南	小中一貫校設置についてはある程度賛成！ しかし、包近町、山直中町については、山滝小中一貫校とし、山滝小中一貫校を現山直南小学校の場所へ設置する事が適当である。 山直中学と山滝中の人数を考慮してみても、包近、山直中は山滝へが妥当。現山滝中の場所の広さ、通学距離を考慮してみても現山直南小へ設置することが妥当。 地域コミュニティを大切にするというのであれば、包近、山直中は山滝であるし、せっかく今回、適正規模適正配置を行っても、数年後に山滝小中一貫校の人数は減少の一方であり、見直しが必要になってくるはず。であれば今、包近、山直中が山滝が妥当！ ☆小中が山滝になること、うわさにより増加しかけていた岸の丘への移住を断念する人が出てくるのでは！？ ☆（案）ありきでなく、本日出た意見を「案2」として同じたたき台にのせて作ってほしい。	山直南校区の児童が中学校進学の際、2つの中学校に分かれて進学することは、教育委員会としても、友達と別々の中学校に分かれてしまったり、義務教育9年間の連続した学びを提供する上で課題があると考えており、適正規模・適正配置の取組を通じて解消していきたいと考えています。第1期計画案では、既存の中学校区を単位とした再編案をお示ししているところですが、説明会においても、山直南校区の児童が同じ中学校に進学することを望むご意見を多くいただきました。また、山直南小学校区に小中一貫校の設置を、といったご意見も多くいただいています。 教育委員会としては、地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。
51	11/22(月) 山直南	①稲葉町として、今年1月末に町民の署名及び稲葉町としての要望書を提出しているが、この10ヶ月の間、何も実施計画（案）を修正することなく、説明会の開催することに対し、町民等を無視した方となり、当該実施計画をどうしても通そうとしているしか見えない。 ②生徒数の減少等で「適正規模及び適正配置実施計画」を作成する必要性については認められるが、現代の実施計画（案）については、単に山滝中学校へ生徒を集約する事しか考えていない状況である。 生徒数を適正化している分けではない。例えば現山直南小学校を小中一貫校の場所にし、現山直南小（包近、山直中、稲葉、積川）と山滝小の生徒を集約する事とすれば、計画の山滝中学校に設置するより、生徒数が多くなり、学校敷地も広く利用出来ると思う。 また、今後の適正規模、配置を考えるのであれば、丘陵地区等に小中一貫校を作り、光明小学校区の一部を含くみ考える必要があると思う。	①令和2年11月に策定しました今回の第1期計画（案）について、本来であればもっと早く説明会を実施すべきでありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、集会が制限されていたことから、開催が遅れたことをお詫び申し上げます。その間、稲葉町内会様以外の団体や、市民の皆様からも多くご意見・ご要望をいただいているところですが、教育委員会としては、まずは当初策定した第1期計画（案）について広く市民の皆様説明する必要があるため、今回はその内容の説明会としています。今後は、各団体からのご意見・ご要望や、市民の皆様からのご意見も踏まえつつ、子どもたちの教育環境の向上等に資する内容については、計画案に反映し、より良い計画を策定していきます。 ②No1（通番50）の回答のとおり、山直南校区の児童が同じ中学校に進学することを望むご意見や、山直南小学校区に小中一貫校の設置を、といったご意見を多くいただいています。教育委員会では、地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。
52	11/22(月) 山直南	絶対反対 説明会の回答は何も回答になっていません。 ただご了承下さいだけでは納得できません。	今後も引き続き、丁寧な説明と話し合いを行い、より良い案としていきたいと考えています。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
53	11/22(月) 山直南	適正規模のアンケートを取ったと言われるが質問がゆうどうではないか、山直南が問題であるという声があったのか？ 何の調査により小規模のデメリットが多いとなったのか？いじめ、学校の近さ、感染症など小規模のメリットは明らかに多い。小学校別のコロナ休校回数を出してください。 学校が遠くなった際に事故やいじめが増加すればこの案の計画者全員で責任をとれますか？小中一貫はのぞんでいない。中学校単位ではなく地域に合わせた校区見直しで対応できる。 （下線部）→私立中学校助成や岸和田市内にゆうちすればいい。 案といいながら一つの案を住民におしつけるのはおかしい。 ホームページに今後のお金がかかるとあるが新しいものを作る方がお金がかかる。お金の問題なら市役所を小さくして山手の小学校内に分散すればいい（災害対策として地域に小学校は必要、分散することで市役所機能バックアップともなる。） なぜ山直中学校より古くからある山直南地区を分割するのか？考え方には山直南を基本に地域ととらえるべき。調節地区を定めるべき分割される地区が学校を選択出来るべき、である。 市街化調整区域を見直し住民増加を促すべきで、住民が多い地域の開発を逆に制限すべき。 少くない小学校合同音楽会や運動会で対応可能。 岸和田市の赤字はゴミ処理場や第3セクター失敗した職員、市長（過去）が責任をとるべきで教育にはたくさん予算をつかう必要がある。小中の教員免許がある人が子どもにとって良いというデータはあるのか？ いじめや不登校、学力が低い地域はどこなのか今の岸和田の現状がふまえて小中一貫が山手地区に必要なのか （下線部）→データだせ。 中学生・小学生が同じ学校にいることでいじめ・悪意のある関わりが増えると思う。 中一ギャップは他の方法で改善すべき（中学校の質を考えるべき）私は小中別場所を強くのぞむ。 山直南は残してバリアフリー化、ICT、英語教育、交換留学など小規模でしか出来ない対応をすめ、岸和田全体から希望者がかよえる小学校にすればよい。修斉と山直南ですれば普通学級での障がい児受け入れが出来るのでは？山手小学校（修斉と山直南）の中に岸和田養護学校を分散すれば良い。 山直南がなくなれば地域住民が災害時にひなんできない 3~4kmも高齢者は移動出来ない。 小学校がなくなれば地区コミュニティはなくなってしまう。市の担当者の返答ではなくならないとなっているがうそじゃないかと思えない。 国の基準とあるが小1、2年に3~4kmの通学は難しい 歩いて行けない、バスでは運動発達上良くない。 山滝、山直南小学校は残し 中学校区のみ見直しをして包近も中学生になれば山滝中学校に進学すればいいのでは？山滝中学校を山直南・山滝中学校とすればいい。山滝小・山直南小をそれぞれ中学校付ぞく小学校（2つとなれば）	①アンケートについて、平成30年度に実施した調査は、適正規模・適正配置を検討するにあたり、岸和田市の特色や実情を踏まえるための参考として市内全域を対象としたものであり、学校規模の違いによる特性等を把握するため、学校規模別に分類し、集計しています。質問はデメリットだけではなく、メリットについても伺っており、その内容については、市のホームページで公開しています。 ②小規模校のメリットについては承知しておりますが、小規模校における感染対策上の優位性の有無については、国においても、明確なエビデンス（根拠や証拠）は示されていません。 ③コロナ休校回数について、令和3年度における12/15までの新型コロナウイルス感染症陽性者判明による臨時休業の回数は次のとおりです。回数については、臨時休業期間の長短に関わらず連続する期間で1回と数えています。 城内小学校3回、朝陽小学校2回、東光小学校1回、旭小学校1回、天神山小学校1回、春木小学校1回、大芝小学校1回、大宮小学校2回、城北小学校1回、新条小学校1回、八木小学校2回、八木南小学校2回、常盤小学校5回、城東小学校1回 なお、いずれの場合も在籍クラスを超えて感染が拡大することはありませんでした。 ④通学路の安全対策やいじめの防止と解決については、適正規模・適正配置の取組と並行して、市全体の重点施策として引き続き取り組んでいます。 ⑤私立中学校の助成や小中一貫校の誘致についてはご意見として承ります。 ⑥市役所機能の分散化についてはご意見として承り、あるいは担当部署に伝えます。 ⑦学校選択制や、市街化調整区域の見直しについてはご意見として承り、担当部署にも伝えます。 ⑧学校行事を合同で行うことについては、小規模校の一方策として承知していますが、教育委員会としては、日頃から集団規模が確保された教育環境を整えることが大切であると考えています。 ⑨教育予算について、子どもたちの教育の充実に向けて、必要な予算の確保に努めています。 ⑩教員免許について、小中両方の教員免許を所持している教員は、小学校、中学校いずれにおいても授業の実施が可能となり、相互乗り入れ指導を行う上で利点となります。 ⑪いじめや不登校の認知件数及び全国学力・学習状況調査等による学力について、学校規模の大小や地域性が相関しているという傾向は確認されていません。なお、本市における学力調査の結果については、市のホームページで公表しています。 ⑫中1ギャップの課題については、小中一貫教育をはじめ、様々な方策によりその解消に努めます。 ⑬小中一貫校ではいじめ等が増えるといったご意見について、先進事例においては、中学生が小学生の模範となる意識が醸成されることで、問題行動が減少したという成果を伺っています。 ⑭山直南小学校における取組内容の事例についてはご意見として承ります。 ⑮災害時のご意見について、学校は、教育施設としての機能だけではなく、防災や地域コミュニティの拠点としての機能を果たしてきたことから、それらの機能については、地域の方々のご意見も踏まえ、市長部局とも連携し必要な対策を講じます。 ⑯通学距離については、国の基準にとらわれず、他地域との均衡も鑑みつつ、必要な場合はスクールバス等を導入します。乗降場所等運用の詳細については、今後、地域・保護者の皆様のご意見も踏まえ検討します。 ⑰通学区域について、No1（通番50）の回答のとおり、山直南校区の児童が同じ中学校に進学することを望むご意見を多く頂戴しています。 教育委員会としても地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画を作っていきたいと考えます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
54	11/22(月) 山直南	子どものためと言いますが、大規模校の方が、子どもに寄り添うことができるのでしょうか。目の行き届かない子どもが増えたり、いじめ事象が増えたりしないでしょうか。 また、支援学級が増えて一クラスが40人以上になったりしないでしょうか。 現場の先生方の声もお聞かせ下さい。 包近、山直中が、山滝に入る案も提示していただきたい。 住民投票はしないのでしょうか。	①適正規模・適正配置の取組は、大規模の学校にする取組ではなく、例えば小学校ではクラス替えができる程度の規模の学校を、市内全域でバランスよく配置することにより、子どもたちの教育環境をより良くすることが目的です。 ②通常学級の学級編制における基礎となる児童数には、支援学級在籍児童を除いているため、支援学級在籍児童が通常学級に戻り学習活動を行う際には40人を超える場合があります。この課題については、教育委員会としてもその解消に向けて国・府へ要望するとともに、市長部局に対しても必要な予算措置を求めているところです。 ③小中学校の校長、教頭、教職員の代表等で構成される「岸和田市小中一貫教育推進会議」における毎回の会議録については、市のホームページで公開しています。 ④山直南校区の児童が同じ中学校に進学することを望むご意見を多くいただいていることから、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。 ⑤今後、地域・保護者の皆様のご意見をお聞きし、教育委員会の考え方もご説明したうえで、より良い案としていきます。そのうえで、市とともに方針を決定し、市議会でご審議をいただいて決定していきますので、住民投票を行う予定はありません。
55	11/22(月) 山直南	山直南小へ通う4町の子どもたちを今までのように中学校区で分けていたのを見直してほしい。小学校の統廃合をするのなら、今、同じ時期に見直せるのではないのでしょうか？ 包近、山直中の少人数の子どもたちを大規模校である山直小に通わせるのは不安です。きめ細やかな指導を今のように受けることはできるのでしょうか？ 山直南小は小規模校でありながら、現在、支援学級数が4クラスです。支援を必要とする子どもの割合が多いなか、目が届きにくくなり、必要な支援がうけられるのでしょうか？子ども達の実態に合わせた適正配置を実施してほしいと思います。 山直南小に通う4町の子ども達を同じ中学校に通える案を出してほしいです。	No1（通番50）の回答のとおり、山直南校区の児童が中学校進学の際、2つの中学校に分かれて進学することは、教育委員会としても、友達と学校が分かれてしまったり、義務教育9年間の連続した学びを提供する上で課題があると考えており、適正規模・適正配置の取組を通じて解消していきたいと考えています。第1期計画案では、既存の中学校区を単位とした再編案をお示ししているところですが、説明会においても、山直南校区の児童が同じ中学校に進学することを望むご意見を多くいただきました。教育委員会としても地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。 なお、支援を必要とする児童生徒の対応については、介助員・支援員の配置とともに、きめ細やかな支援を切れ目なく行います。
56	11/22(月) 山直南	☆山直南小学校をなくさないでほしいです。 ☆ゆめみが丘の住民、生まれてくる子どもの事も考えてほしいです。「新しい町」力を入れて下さい。 ☆包近町、山直中町の児童は、山滝中学校へ進学させてもらえると、地域差が少ないと思います（私の息子が、中学進学時、20年位前にそういった案がありました） ☆子ども達の事を一番に考えてほしいです。	No1（通番50）の回答のとおり、第1期計画案では、既存の中学校区を単位とした再編案をお示ししているところですが、説明会においても、山直南校区の児童が同じ中学校に進学することを望むご意見を多くいただきました。教育委員会としても地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。
57	11/22(月) 山直南	1.教育委員会の案には反対！ 2.山直南小の廃校は、コミュニティーの分解、ホウ壤につながる。	学校は、何よりもまず、子どもたちの教育のための場であり、将来にわたって、子どもたちにより良い教育環境、教育内容を保障していくことを最優先に取組を進めていきたいと考えます。それによる地域コミュニティへの影響については、地域の皆様のご意見も踏まえ、市長部局とともに必要な支援を行います。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
58	11/22(月) 山直南	・小中一貫校はもっと考えてモデル校をするなりじっくりと進めてほしい。 ・山直南校だけでなく適正配置という名のもとに住民の気持ちや子ども達のことを考えていない統配合だと思います。 ・学校がなくなれば人口も減ります。どんどんかそ化すれば岸和田の発展はないと思います。 ・クラス数が少なくても良い教育はできます。	①小中一貫校を含む小中一貫教育については、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。文部科学省の調査では、H26年とH29年の調査ともに、導入済みの自治体のうち、95%を超える割合で大きな成果が認められる、または成果が認められるとの回答があり、教育的効果が期待できると考えています。一方、課題が認められるとする割合については、H26年の調査では77%であったものが、H29年では53%に減少しており、各自治体において課題を解消するための取組が構築されてきたものと考えます。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。 ②これからの子どもたちに、より良い教育環境、教育内容を保障していくことを最優先に考え、地域の皆様と十分な協議を重ねながら、適正規模・適正配置の取組を進めていきます。 ③人口の社会増に向け、子育て世代に岸和田市を選択してもらうためには教育環境、教育内容の充実が重要であると考えます。それに向けて、小規模化している学校をそのままに、現在ある学校の数を維持するのではなく、適正規模・適正配置及び小中一貫教育の取組の推進により魅力ある学校づくりを進めることが必要であると考えています。
59	11/22(月) 山直南	小学校の適性範囲は、4kmとあるが、低学年は、難しい。 統合しても、何年後には、また統合しなければいけないのでは？ 市として、守りに入らず、もっと、人口を増やす事を考え、現在の調整区域を緩和し、市外に出る人の流出をなくし、市外の人を取り込み、企業を増やして、税収を増やして、現在の学校配置でいける様に考えて下さい。 今でも、子供は、学校から帰って来るだけで、夏は汗だけで、熱中症等もおこる。 少人数での教育に賛成です。	①文部科学省は、通学距離について、小学校は概ね4km以内としているものであり、4kmが小学校の適正範囲というものではありません。児童生徒の通学環境については、安心・安全を最優先に必要な対応を行います。 ②市街化調整区域の緩和等のご意見については担当部局に伝えます。 ③魅力あるまちづくりや、教育の充実を図るための様々な施策については、今後も市長部局とともに取り組んでいきます。
60	11/22(月) 山直南	・案が1つしかなく、残念 ・小中一貫にするにあたり子供が行きたくなくなるような学校を作ってほしい。（ありものの学校でなく新規で） ・単なる統合でお金をかけず、おし込む内容が表れている。	施設の整備にあたっては、地域・保護者・児童生徒のご意見も踏まえながら、設計時にその内容を反映させる等の工夫を図り、子どもたちにとって魅力ある学校づくりに努めます。
61	11/22(月) 山直南	・適正規模及び適正配置実施計画については異論ありません。 が、たたき台ならば山滝中学校と山直南小学校の案も作成してください。	①市と教育委員会として、学校の小規模化の現状や、市内の学校の配置状況、今後の人口や児童・生徒数の推移、岸和田市が置かれた全般的な環境など、様々な観点を踏まえて、最適と思われる内容を一つにしてお示ししたものです。いくつかの案を提示することとなれば、市・教育委員会としての主体性が問われ、その責任を果たすことにはならないと考えます。 ②山直南小学校区に小中一貫校の設置を、といったご意見も多くいただいています。教育委員会としても地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。
62	11/22(月) 山直南	やっぱり、夢見や、泉州山手線沿道の宅地開発（すでに山直北・光明は図面が出来ています）後の人口動態を加味した児童数の変化を示さなければまずいですね。 今日は演説が多いなあ この地域の高令者のお話を聞いていると、市街化区域に反対して、調整地域にしたのは誰だったんだらうと思う。山直南や修済の人々は、今や市街化区域を望んでいるのかなあ	教育委員会としては、開発担当部局の意見を聞いたうえで、ゆめみヶ丘の住宅開発による児童・生徒数の今後の推移も想定しながら、今回の計画案をお示しました。住民説明会では、500人の児童・生徒数の増が見込めるとのご意見をお聞きたところであり、教育委員会の見込みを大きく上回ることから、今後、地域の皆様と協議していく中で、双方の数字を突き合わせ、その根拠等を確認したうえで、より確かな児童生徒数のシミュレーションを行います。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
63	11/24(水) 修斉	この校区の人口減少に対する取組が急務。行政と地域が一体となってプロジェクトに取組む必要があると思います。 動きが遅すぎると思います。 魅力のある地域となるため努力し、PRが必要と考えます	魅力あるまちづくりや、教育の充実を図る様々な取組については、今後も地域とともに取り組んでいきます。
64	11/24(水) 修斉	市は小中一貫教育をやればこんなに子どもが成長するとアピールするだけで本当にそうなのかと疑問に思う。今小集団でしっかり教育されているこの地域の小学校を残してほしいです。修斉小学校を卒業した子どもはしっかり学び、子どもらしく育っています。 コロナ禍の中で少人数学級をすることが大切な時期なので大規模化にするのですか。計画を白紙に戻してください。 国が言っているから私達にも「せよ」と言うのは大変おかしいです。 地域の声をしっかりきいて下さい。	①小中一貫校を含む小中一貫教育については、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。文部科学省の調査では、H26年とH29年の調査ともに、導入済みの自治体のうち、95%を超える割合で大きな成果が認められる、または成果が認められるとの回答があり、教育的効果が期待できると考えています。一方、課題が認められるとする割合については、H26年の調査では77%であったものが、H29年では53%に減少しており、各自治体において課題を解消するための取組が構築されてきたものと考えます。教育委員会では、小中一貫教育の教育的効果は高いと判断しており、今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。 ②小規模校ならではの取組や優位性があることは承知していますが、子どもたちには、成人するまで、また、成人した後も、限られた少人数の環境が保障されるものではありません。教育委員会としては、義務教育9年間の学校生活の中で、子どもたちが身に付けた力が、将来社会に出た時も、たくましく、生きる力につながるものが何よりも大切であると考えており、そのためには小・中学校の段階から、集団規模が確保された教育環境の下で、多くの友達をつくり、時には自分と違う多様な考え方に触れ、時には意見を闘わせながら、ともに協力して課題を解決していく力をつけることが大切であり、小中学校の適正規模・適正配置の取組を進めるべきと考えています。 ③新型コロナウイルス感染症について、1校及び1学級当たりの児童生徒数の多寡と、感染リスクの関連性については明らかにされておりません。新型コロナウイルス感染症の感染対策については、学校の規模に関わらず、すべての学校において、3密回避の徹底をはじめ、国や府のガイドラインに基づき適切に対応しています。 なお、感染症対策において、一定の空間内での人の密度のあり方については、学校だけでなく、あらゆる施設や交通機関などに共通するものであり、必要であれば、国において統一的な基準が定められるべきものです。感染症対策の観点と小・中学校の適正規模・適正配置の取組を結び付けることは妥当ではないと考えます。また、少人数で密を防ぐというコロナ禍での学校における緊急対応を、今後、平常時においても継続すべきか否かについては、教育の基本に関わることであり、国において一律に判断・決定すべきものと考えます。
65	11/24(水) 修斉	ありがとうございました。まだまだこの段階で具体案を出すことはとても難しいですし、ここで言ってしまうと、後でくつがえす事はさらに難しいと思います。細かく、決まったことを発信してもらえたらと思います。 私は小中一貫を進めていいと思います。今のままでは一生変化はありません。でも！少しでも子どもたちにとってプラスになる可能性があるなら、親としておねがいしたいと思います。 子ども達の未来のために！	教育委員会の考え方や、市民の皆様からいただいたご意見等については幅広く公表していきます。 今後も、子どもたちにとって良い教育環境を最優先に考え、取組を進めていきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
66	11/24(水) 修斉	①本日1番目にあった資料の28ページ「8適正化に際しての必要な対応」の「(2) 学習環境への配慮」について、◇児童生徒同士の事前交流の「事前」とはいつのことですか？また、交流とは何ををするのですか？もし、小中一貫校になる前に天神山小、修斉小、東葛城小の学校同士で交流するのであれば各学校先生に任せっきりになるのですか？ ②同じく、教員配置や部活動への対応について、必要な対応をしていくと言っていました、具体的にどういう対応ですか？ ③中学生の部活動と小学生の学童保育が時間的に同じになると思いますが、どのように区別しますか？(放課後・土曜日)また、その時のスクールバスはどのように動くのか。 ④スクールバスを導入とありますが、もし阿間河滝町のみで1学年5人として6学年で30人大型バスは町内の道路に入て来れないと思います。また③番とも重複しますが、帰りはどうなりますか？	①他の自治体の先進事例では、再編の数年前から、運動会や体験学習などの学校行事を合同で行ったり、一緒に給食を食べることで交流を図るといった取組等が報告されています。具体的な交流時期や内容等については「(仮称) 学校開校準備委員会」でのご意見等も踏まえ検討していきます。 ②適正化後の学校については、小・中学校両方の資格を持つ教員を配置しますが、教職員の数が十分に確保されない場合は、市独自の教員加配を検討します。部活動についても十分な数が確保されない場合は、例えば、隣接校と合同チームを編成するなど、必要な対応を行います。 ③施設整備の際に、小学生が遊ぶスペースを別に設けるなど、児童生徒数の安心・安全を最優先に様々な工夫を行います。スクールバスの運行時間等の詳細については、大幅な待ち時間が生じることのないよう、また、安全確保を最優先に、(仮称) 学校開校準備委員会でご検討していくこととしています。
67	11/24(水) 修斉	市長の言いなりで大変だと思いますが意見を言わせてもらいます。 市長のする事は納得できません。 統廃合すれば、学力は井の中の蛙になると違いますか？決まった？かもしれませんが反対です。 もっとやる事あるのでは！わかりませんが、市街化調整区域を解除すれば、人が増えるのではないですか？これもせず。急に人が少ないから統廃合するのはどうかと思います。海側の学校崩壊←特認校の世話になっていると違いますか？	①学力向上の取組については、適正規模・適正配置の取組と並行し、教育委員会の重点施策として実施し、すべての児童生徒に確かな学力の育成を図ります。 ②市街化調整区域解除のご意見については、担当部署に伝えます。
68	11/24(水) 修斉	今、現在の葛城中の施設では、案に記されている小学校16～18クラス、中学校9クラスの児童・生徒にとってより良い教育環境ではないと思います。教室はどうか確保されても運動場や体育館等はとてもせまく、児童生徒はのびのび活動できるとは思いません。また、幼児教育との一貫も挙げられていますが、山滝小中学校とは違い、幼稚園(こども園)は併設されておらず、今の幼稚園と小学校とのつながりが寸断されることになります。今までの幼小連けいをむだにしないで下さい。	①小中一貫校の設置にあたり、施設整備を行う際は、児童生徒が安心・安全で快適に学校生活を送ることができるよう、今後、(仮称) 学校開校準備委員会におけるご意見等も踏まえながら、その内容を設計に反映してきたいと考えます。運動場について、現葛城中学校の敷地内で文部科学省の基準を満たす面積が確保できますが、この点についても、(仮称) 学校開校準備委員会におけるご意見等も踏まえながら、さらに広い面積が確保できる方途がないか、十分に検討していきます。 ②幼小の連携については、「岸和田市小中一貫教育基本方針」に基づき、これまでの幼小連携の取組を活かし、施設の近接性の有無に関わらず、今後は幼児教育を担う就学前施設と小学校が連携し、カリキュラムの一体的な整備を図るとともに、幼小連携の取組を中学校にも拡大した一貫教育についても検討します。
69	11/24(水) 修斉	教育委員会の説明は現状の数で考えておられますが、市の人口問題が問題ではないですか。市に人が集まってこないことが一番の原因では。人口を増やす政さくが解決する近道では。	人口の社会増、特に子育て世代に岸和田市を選択してもらうためには、教育環境の充実が重要であると考えます。それに向けて、小規模化している学校をそのままに、現在ある学校の数維持するのではなく、適正規模・適正配置及び小中一貫教育の取組の推進により魅力ある学校づくりを進めることが必要であると考えています。 魅力あるまちづくりを図るための様々な施策については、今後も市長部局とともに取り組んでいきます。
70	11/24(水) 修斉	○通学区域の見直しによって、町会が分断されるケースがあるならば、町会としてのコミュニティが維持できるか(子供会等の運営) 町会連合会などへのオーソライズの現状はどうなっているのか。 ○特認制度を導入し、通学する子どもの数をどの程度積算し、全校児童生徒数はどの程度の新しい学校規模を想定しているのか。 ○葛城の谷地域と牛滝の谷については、義務教育学校か、小中一貫型小・中学校かを、市の方向性を示した上で議論すべき(各学校開校準備委員会で別の案が出れば異なる形態なる)。	①学校は、何よりもまず、子どもたちの教育の場としての機能が最優先されるべきものであり、そのために、適正規模・適正配置の取組を進める必要があると考えます。その結果、地域コミュニティに及ぶ影響については、地域の皆様との十分な協議を踏まえた上で閉校後の校地・校舎のあり方も含め、市長部局とともに検討していきます。なお、今回の実施計画(第1期) (案) の内容については、町会連合会議においても報告させていただいたところです。 ②特認校制度を利用する児童生徒数の見込みは、現時点では困難なため、今後、適正化後の学校の児童生徒数を踏まえた上で、必要な場合は特認校の児童生徒に定員を設けるなどの対応を行います。 ③小中一貫校の施設形態については、他市の取組事例を参考にするとともに、今後「岸和田市小中一貫教育推進会議」、「(仮称) 学校開校準備委員会」で幅広く議論した上で、その方向性を定めます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
71	11/24(水) 修斉	適正規模・適正配置の主旨は理解できた。 一番心配するのは、通学路が長くなること。道路が狭かったりすることで、安全が確保できるのかということです。特に低学年にとっては大きな負担になると思う。スクールバス等活用する必要があるのでは？今日の話で課題もたくさんあるようだが、スクールバス等の運行は是非考えていただきたい。	通学路の安全確保をはじめ、児童生徒の通学環境が変わることへの配慮を十分に行います。 スクールバスについては、通学距離だけではなく、通学路の状況や地理的条件など各地域の実情を踏まえ、他の地域との均衡にも配慮しながら、必要な場合は導入します。導入する場合の運行ルートやスケジュール等の詳細については、（仮称）学校開校準備委員会で十分に協議したうえで、決定します。
72	11/24(水) 修斉	小中一貫校にしてメリットもたくさんあると思いますが小学生を日頃目にしている者からしましたら、身体の大きさの違う小学生と中学生を一緒の場所にして大丈夫なのか？ テレビでも喫煙年齢が下がってきている様事があり、小学生にとってのデメリットばかり考えてしまいます。校舎一帯型ではなく施設隣接型の方が良いとは思いますがそうすると葛城中学校の敷地で十分なのかも疑問に思います。 今日の質問にも出ていました。登校キョリよりも、学校生活が小中共に安心安全に過ごせるのかを重視してもらえるのでしょうか？	本市における小中一貫校は初めての取組であり、皆様が疑問や不安を抱かれることは理解できることです。 No2（通番64）①の回答のとおり、小中一貫校を含む小中一貫教育については既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。実績が積み重なるにつれ、各自治体において課題を解消するための取組も構築されているところです。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。 なお、No6（通番68）①の回答のとおり、小中一貫校の設置にあたり、施設整備を行う際は、児童生徒が安心・安全で快適に学校生活を送ることができるよう、計画してまいります。 喫煙などの問題行動への対応については、小中一貫校であると否とを問わず、全ての小中学校で、必要な生徒指導を進めていきます。
73	11/24(水) 修斉	伝統ある修斉小学校は、是非とも残して頂きたいです。小中一貫あるいは、中高一貫などの教育方針は大変貴重だと考えますが、財政上可能ならば葛城中はそのままで、小学校区の統合をして下さるとうれしく思います。 この30年～40年間で増えた中学校や小学校をなくす方向で進めていただきたく希望します。	歴史と伝統のある学校を、地域の皆様が大切に思われることは十分に理解できることです。しかしながら、学校は、何よりもまず、子どもたちの教育の場としての機能が最優先されるべきものであり、そのために、適正規模・適正配置の取組を進める必要があると考えます。 義務教育9年間の系統性や連続性、めざす子ども像の共有といった小中一貫教育の大きなねらいを考えると、「施設一体型」のほうがさらに高い教育効果が期待できることから、現葛城中学校での小中一貫校を計画したところです。 計画が具体化した場合には、修斉小学校の歴史や特色ある教育内容は、新たな(仮称)葛城小中一貫校に引き継いでいきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
74	11/28(日) 山直南	永野市長と市民の皆さんに訴える。 今般岸和田市教委が、小中学校の規模適正化等を目的として、150年の歴史と伝統を誇る山直南小学校を廃校にするとの案を発表されました。 この案では、包近・山直中と稲葉・積川の子供が分断され、山直南校区が破壊されることになります。 私は、愛する郷土を守るため、この案に断固反対します。 岸和田市の人口は年々減少していますが、校区別に見ると増加している校区もあります。 減少校区の代表は、山滝校区です。山直南小学校を廃校にして稲葉と積川の子供たちが通学する山滝の小学校は、将来一層少子高齢化が進む地域にあり、教委が目指す小学校の規模適正化は夢のまた夢です。 一方包近と山直中の子供たちが通学することになる山直小学校校区は、市長が住いされている三田町はじめ岡山町田治米町今木町等市街地にあり、住宅適地が広く存在しています。将来、この地域は必ず人口増加が見込まれ、やがて小学校は規模過大校となり分割されることになるでしょう。その時最初に犠牲になるのは包近と山直中の子供たちです。 私は愛する郷土と子供たちを守るため山直南小学校の廃校に断固反対します。	学校は、何よりもまず、子どもたちの教育のための場であり、将来にわたって、子どもたちにより良い教育環境、教育内容を保障していくことを最優先に取組を進めていきたいと考えます。それによる地域コミュニティへの影響については、地域の皆様のご意見も踏まえ、市長部局とともに必要な支援を行います。 地域ごとの人口増減に関するご見解については、ご意見として承ります。
75	11/28(日) 山直南	実施計画案の中では、小規模化によるデメリットばかり指摘し、それをクリアするために、適正化が必要であるという論調だが、小規模によるメリットもたくさんあるはずである。また、適正化とは云え、デメリットもあるはず。そのあたりの議論がしっかりとできる計画案が必要である。 小中学校と地域のつながりというのは、非常に強いものがある。その点をふまえ、例えば、学校がなくなった場合、その地域にどのような影響がでるのか、考えているのか、不明である。	6～11学級の小規模校のメリットとして、児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われていること、学校が一体となって活動しやすいこと、運動場や体育館、特別教室、教材備品等余裕を持って利用できること、色んな学年の児童生徒とふれあう機会が多いことなどがあげられます。 一方、適正規模・適正配置の実施に伴う課題としては、通学距離が長くなること、地域コミュニティへの影響があることをあげ、前者については、通学の安全確保のための対策を講じるとともに、必要に応じてスクールバスを導入すること、後者については、地域の皆様と協議し、市・教育委員会として必要な支援を行っていくことを、説明会でご説明してきたところです。 文部科学省が示す新しい学習指導要領では、学校で学んだことを子どもたちの将来につなげていくために、主体的・対話的で深い学びを重視しており、教育委員会としては、集団規模が確保された教育環境の下で、多くの友達をつくり、時には自分と違う多様な考え方に触れる機会をたくさん創ることが大切であると考え、今回の適正規模・適正配置の取組を進めているところです。小規模校にも多くのメリットがありますが、適正規模・適正配置により、教育環境、教育内容を充実していくことのほうが重要であると判断して、適正規模・適正配置の取組を進めていくこととしております。
76	11/28(日) 山直南	少子化に伴う、小中一貫校は理解出来るが、岸の丘町に市の土地が多くあると聞いているが、小中一貫校を新設する事にした方が良い。今の山滝中学に集約されるには、今後のメンテナンスコストを考えれば新設の方がメリットがあると思います。人数の少ない場所に多い学校が行くのは問題が多い。通学バス等の費用も増えると思う。	現在、ゆめみヶ丘の住宅開発エリア周辺の市有地については、民間事業者による有効活用を図るべく、公募による売却手続きが進められており、学校整備に適した敷地がない状況です。また、現在森林となっている自然保全エリアに学校施設を新設するとなると、学校の建設費用に加えて、土地の造成費用や、上下水道の整備費、電気、ガスといったインフラ整備費用が別途生じてきます。さらには、都市計画の変更が可能としても、その手続きに要する期間が学校建設の前に数年程度必要となり、これらのことを踏まえると、このエリアの市有地に学校を新設することは困難であると考えています。
77	11/28(日) 山直南	岸和田市小中計画は市の方針であれば永の市長は市長選の公約に入れて下さい。	ご意見として承ります。
78	11/28(日) 山直南	資料にたくさんのおやまりがあります。 きちんとした資料をつくらまはろ！	当日の資料については、教育委員会としての考え方や方向性をお示ししたものであり、また児童数等については、学校基本台帳や住民基本台帳等に基づき算出しています。具体の箇所をご指摘いただければ、確認の上、事実に基づいて必要な修正を行います。今後も、市民の皆様にわかりやすい説明及び資料づくりに努めます。

ご意見ご質問用紙内容と教育委員会の回答・考え方

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
79	11/28(日) 山直南	計画では私の住んでいる所から山直小学校へ通学することになります。小学校が遠くなることから若い人が入居しなくなります。今でも老人の町ですがさらに進んでいき廃墟の町になりそうです。 市街化調整区域を外してもっと人が増えることも市と一緒に検討して下さい。	市街化調整区域解除のご意見については、担当部署に伝えます。 魅力あるまちづくりを図るための様々な施策については、今後も市長部局とともに取り組んでいきます。
80	11/28(日) 山直南	つぶさせません。	ご意見として承ります。
81	11/28(日) 山直南	小学校中心とした地域です。山直南小学校廃校で反対します。歴史ある150年の伝統を大切に、山直南小学校発展にしてもらいたいです。	山直南小学校が地域の皆様に支えられ、歴史と伝統を紡いでこられたことに感謝申し上げます。 今後も、各学校が児童生徒の豊かな心を育むために取り組んできた特色ある教育活動については、引き続き継承した上で、未来を担うこれからの子どもたちがより良い教育環境の下で学校生活を送ることができるよう、取組を進めていきます。
82	11/28(日) 山直南	山直南小 → 山直南中学 山滝中 → 山滝小学 ←3校全員が統合する(包近 山直中 相川 河合等) 山滝中はせますぎる	ご意見として承ります。
83	11/28(日) 山直南	計画が進んでいく中で、山直南小学校が廃校にならない可能性を考えておられますか？ 小中一貫校の方針はメリットあると思いますが、校区の分け方に問題があると思います。	今回の地域説明会において、山直南校区の児童が同じ中学校に進学することを望むご意見や、ゆめみヶ丘の開発に伴う児童生徒数の増加を踏まえると再編の必要はないといったご意見も多くいただいています。教育委員会としても地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。
84	11/28(日) 山直南	福祉教育についても、もっと、力を入れるべきだと思います。そのためにも英語教育、プログラミング教育だけでなく、お年寄りや障害のある方に寄り添う心を子どもたちに持ってもらうために、福祉教育は、全学年に児童のレベル(各学年の理解度)に合わせて行っていただきたいと思います。その際、岸和田市社協もこの取り組みに巻き込んで連携を取りながら”福祉のまち岸和田”をアピールできるように福祉教育にもっと力を入れていただきたいと思います。	福祉教育の重要性については、教育委員会はもとより市内全学校で理解しつつ、各学年に応じた内容で計画を立て実施しているところです。小中一貫教育の実践の中で、系統的に実施することも含めて検討していきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
85	11/28(日) 山直南	・市立の小中一貫が必要と思われない。中学入学時のギャップが問題だと書かれているが、人生の中で、困難は何度もある。わざわざ大人が遠ざける必要は感じられない。 ・また、クラブなどが少人数で出来ないとの事だが、やりようで出来るのではないか。知恵をしぼる方がよいのではないか。 ・存続する方向で議論できないものか。 ・少子化の現実を理解できるが、どう対応していくか考えていくようにしたい。町全体を考えていく。 ・「計画案ありき」では、ない。再編にはお金がかかるのでは？	①小中一貫校を含む小中一貫教育については、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。文部科学省の調査では、H26年とH29年の調査とともに、導入済みの自治体のうち、95%を超える割合で大きな成果が認められる、または成果が認められるとの回答があり、教育的効果が期待できると考えています。一方、課題が認められるとする割合については、H26年の調査では77%であったものが、H29年では53%に減少しており、各自治体において課題を解消するための取組が構築されてきたものと考えます。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。 「中学入学時のギャップが問題だと書かれているが、人生の中で、困難は何度もある。わざわざ大人が遠ざける必要は感じられない」とのご意見については、中学への進学を境に不登校やいじめなどの問題が増えること等は放置できない大きな教育課題であると認識しております。 ②部活動については、多様な展開が可能となるよう、望ましいあり方について引き続き検討します。 ③現在の小学校24校、中学校11校を今後もそのまま存続させることは、これからの子どもたちの教育環境を考えた際に好ましいものではなく、適正規模・適正配置の取組が必要であると考えています。その際の具体的な方策については、現在の計画（案）をたたき台として、今後も地域・保護者の皆様に丁寧な説明と話し合いを重ね、より良い方向性を見出していきたいと考えています。 ④新たな学校が開校する際は、校舎の建替等の整備費用が必要となり、一方、再編に伴い使用しなくなる学校施設の今後の改修費用は不要になるものと考えています。
86	11/28(日) 山直南	・一貫性のない宅地開発で、岸の丘夢見が丘に入居した人たちは、どうなるのか？それで児童数が増えると言われてたのに。→市長もこの計画案に参加しているならなおのこと。市政に一貫性がなく、この岸和田をどうして行きたいのかわからない。 ・「基本方針」通りでなければいけないのか。 ・小中一貫校はいいとは思いますが、今の状態で教育環境に課題があるとは思われない。小中一貫は私立にまかせるべき。→市立は無理。 ・子は国の宝。より良い方に進めたい。子供たちにとって一番大切な事は何か。 ・小規模校の良さをもっと前面に出して、新しいモデルを作っただけだと思う。（デメリットも逆手にとって）今の時代は、その方がいいのでは。 ・統合ありきではないと思う。 ・問題をかかえている子ども（ケアの必要な子ども）も、多少なりといるのでその子たちのためには小規模校の方が良いと思う。	①岸の丘ゆめみヶ丘については、約270世帯、1,000人程度の住宅開発と把握していますが、そのうち、どれ程の人数が小中学生かといったことについては、現時点では不確定のため、算出が困難ですが、説明会の中では、500人の子どもが増えるといったご意見もお伺いしたところです。今後も、最新の情報を常に把握するとともに、地域の皆様が想定される人数の考え方もお聞きし、より正確な児童生徒数の把握に努めていきます。 ②小規模校のメリットについても承知していますが、教育委員会としては、小規模による課題解決を優先すべきと捉えています。文部科学省が示す、新しい学習指導要領においても、これからの社会の中で生きる力を育むために「主体的・対話的で深い学び」が重要とされ、そのためには、子どもたちが一定の集団規模の中で、多くの友達との対話を通じて、多様な考え方を形成し、深い学びにつなげることが大切であり、そのような教育環境を整える上で、適正規模・適正配置の取組は不可欠であると考えています。なお、No.12（通番85）①の回答のとおり、小中一貫校を含む小中一貫教育についても、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。各自治体の取組状況を踏まえると、私立だけでなく、市立の小中一貫校においても、教育的効果は期待できるものと考えています。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。 ③支援（ケア）が必要な児童生徒については、学校規模の大きい小さいに関わらず、すべての小中学校において、必要な支援を適切に行います。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
87	11/28(日) 山直南	☆小規模校のデメリットだけを取り上げず、メリット面を考えてみると ・目がゆきどとく ・キメ細やかな教育が出来る。－それぞれの学力に合わせられるはず。 ・自然豊かな環境 多くの生徒とのコミュニケーションが取れないと言われるが、コミュニケーションは同学年だけのものではなく、他の学年、教師、住人の老若男女と取った方が知識が増えると思われる。 ☆生徒数を増やす方法を考えてみる。 ・夢みが丘などの宅地開発をしてきたのに廃校されるのが納得いかない。 ・特認校を増やしていく（他県からでもいいのでは） ・新入所者が住みやすい環境（交通など）をつくる。 ☆「幼児教育を含めた一貫教育」とされているが市立の幼稚園をなくしてそれが出来るのか？	①№13（通番86）②の回答のとおり、小規模校のメリットも承知していますが、教育委員会としては、小規模によって生じる課題解消を優先すべきとし、適正規模・適正配置の取組を進めているものです。なお、学校生活の中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力等を身につけることは、「異年齢集団」の中であると、「同学年集団」の中であると問わず、必要なことと考えています。また、同学年の集団規模については、クラス替えの可否の点に加えて、学習指導要領等に基づき、学年ごとに教育課程が編成されていることから、同学年においても一定の集団規模が必要であると考えています。 ②子育て世代が岸和田を選択していただけるよう、魅力あるまちづくりや、教育の充実を図る様々な取組については、今後も市長部局とともに取り組んでいきます。 ③市と教育委員会では、市立の幼稚園・保育所を私立・民間の認定こども園に再編する再編個別計画【前期計画】(案)を取りまとめ、説明会を実施いたしました。これら認定こども園における幼児教育については、私立であると市立であると問わず、小学校との連携が必要であり、一貫した教育が実践できるようにしてまいります。
88	11/28(日) 山直南	説明会場が広い（体育館）、答えがきき取りにくい。 第1期計画地域においては、市民と、保護者の個別説明会が必要と思います。 大変やと思いますが、よろしくお願いします。	音声聞き取りにくかったことについてはお詫び申し上げます。 より良い計画の策定に向けて、今後も引き続き、地域・保護者の皆様には十分な説明と話し合いを行います。
89	11/28(日) 山直南	この案の小・中一貫教育については、メリットはあるのかもしれないと思いますが、まずは、市長や議会の都市計画が山手の方への感心があるのか？ということ、つまり、山手の人口を増やすようにする案が、もっと具体的に推進していくべきだと思います。 人口や子供が減少して来たから、再編して、学校を廃校するという受身的な案ではなく、もっと、発展的な方向で、教育にも向けていくべきではないかと思っています。	子育て世代が岸和田を選択していただけるよう、今後も市長部局とともに、魅力あるまちづくりや教育の充実を図る様々な取組を進めています。 都市計画の視点から山手地域の人口を増やすため、具体的に推進すべきといったご意見は、担当部署に伝えます。
90	11/28(日) 山直南	・毎日登下校する学校が遠すぎると感じました。まだ低学年で道中が心配です。もし事故にあったらなど不安が大変大きいです。 ・祖母の代から山直南小学校でお世話になりました。私は、他市からお嫁にきましたが、山直南小学校に子供が入学してとても良かったと思っています。先生方のご指導やご対応は本当に熱心でありがたく思います。 ・小人数で皆が（クラス全員が）仲良く伸びのびと学校生活を送ってくれるのが望ましいです。学校（山直南）をなくすのは絶対に反対です。	①安心・安全な通学環境の整備は教育委員会としての責務であり、必要な対応を適切に行います。 ②地域・保護者の皆様に支えられ、山直南小学校がこれまで育まれてきたことについては感謝申し上げます。一方で、次の時代を担うこれからの子どもたちが、将来にわたって「生きる力」を身に付けるためには、小学校の時から、一定の集団規模の中で、多くの友達との対話を通じて、多様な考え方を形成し、深い学びにつなげることが大切であり、そのような教育環境を整える上で、適正規模・適正配置の取組は不可欠であると考えています。 少人数（小規模校）のメリットも承知していますが、教育委員会としては、小規模による課題の解決を優先すべきと捉えています。
91	11/28(日) 山直南	校区単位で地域で子どもの見守りを進めている中、山直南小学校が半分に分断されると活動は難しくなるのではと懸念します。	再編後の子どもたちの見守りや地域活動については、地域の皆様と十分に協議し、協力を得てまいりたいと考えております。
92	11/28(日) 山直南	・調整区域により自元に住むことが出さなく、人が減ったから学校を減らすというのは横暴ではないかと思う。 ・市政の決点のしわ寄せを背負わされる様に感じる。 ・まず人口を増やす計画をしてからの話だと思うので今その話は受け入れられません。 ・小中学校の一貫による縮小案は、議会の決定事項でつづがえられないのか。今後住宅増加による子供が増える見込みがあってもそれを加味、変更はないのか。	①今回の適正規模・適正配置の取組は、学校の小規模化が進む中、これからの子どもたちのより良い教育環境の整備と学校教育の充実のために行うものであり、これ以上先送りできないものと考えております。 ②今回の実施計画案は、市と教育委員会の案としてお示ししたものであり、その内容について市議会が決定したものではありません。今後、地域や保護者の皆様と十分に意見交換を実施した上で、市長と教育長でより良い案として固め、関連議案を市議会に提案し、そのご審議を経て決定・実行されていくものです。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
93	11/28(日) 山直南	山直南小学校廃校について、地域のデメリットをお聞かせ下さい。（教育面以外） 又、デメリットを解消するための、対策を、お聞かせください。	学校は、教育施設としてだけでなく、防災や地域コミュニティの拠点としての役割を果たしてきたことから、それらの機能については学校閉校に伴い影響が生じるものと考えます。しかしながら、今後、仮に閉校となった学校の跡地活用についても、地域の皆様と十分に協議し、幅広い視点から有効に活用される方策を検討します。また、地域コミュニティのあり方については、学校再編に合わせて、行政が活動単位を変更するのではなく、地域の皆様が主体的に判断されるものと認識していますが、活動場所の確保等の様々な支援については、市長部局と一体的に対応していきます。
94	11/28(日) 山直南	総論は分かります。 この4ヶ村（包近～積川）においては分断されてしまい、地域コミュニティーが、祭も成立しなくなります。 せめて校区を見直し下さい。	第1期計画（案）の策定にあたっては、集団規模の確保だけではなく、通学距離・時間等の地理的条件や、地域コミュニティ等を総合的に判断し、既存の中学校区を単位とした再編案をお示ししているところですが、説明会においても、山直南校区の児童が、中学校においても同じ学校に進学することを望むご意見を多くいただいているところです。教育委員会としても地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
95	11/28(日) 城東	ていねいにすすめて下さい。 結論ありきでなく、充分住民の意見を聞き、反映された計画づくりをして下さい。 コロナ禍がおさまりつつありますが、一度凍結して下さい	今後も、教育委員会としての考え方を丁寧に説明するとともに、地域・保護者皆様のご意見についても十分お伺いし、より良い案としてまいります。 なお、このままでは、今後も学校の小規模化が進んでいくことから、将来にわたって子どもたちにより良い教育環境、教育内容を保障していくため、適正規模・適正配置の取組を着実に進めていく必要があると考えています。新型コロナウイルス感染症の今後の状況如何で、取組を凍結する考えはありません。
96	11/28(日) 城東	市民は納得していると思ってこんな説明会を開いてるようだが、通いやすい場所を選んで家を買ったのに、磯之上山直線を渡って通うのはとても無理！通学時間がかかるし、見守り隊の人たちにも危険が増える！！なんて勝手に決めて、こんな案を出して決まったように話もってくるな。 どの場にも全く出てこない永野市長もおかしい。←テレビ局は出るくせに。（岸和田城の周りのそうじ）自分が市長になる時の約束（こども園増やす、公立幼稚園つぶす）ができてないからあせってる風にしかとれない。今すぐやめれ。みんな嫌ってる！！←市の役員らも具体的に言えてない。質問に答えてるけど内容うすすぎる！！書類だけ立派やないか！！内容うすいわ。市民の声、ほんまに聞け！！！！	現在は、実施計画（案）の段階であり、今後も引き続き、地域・保護者の皆様と話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。 なお、児童生徒の通学の安全確保は教育委員会としても最優先事項と捉えており、今後、地域・保護者の皆様のご意見も踏まえ、必要な対応を行います。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
97	11/28(日) 山直北	・山滝、葛城の地域がクラスが減ってきているのは、理解できますが、少人数だから学力が上がっているという実績はどうなるのでしょうか。また、通学等問題点は多々あると思います。それなのに、なぜ中央・浜小学校の方が後の計画なのでしょう。	岸和田市の全国学力・学習状況調査等による「学力」が、学校規模の大小と相関しているという傾向は確認されていません。本市のすべての小中学校において、確かな学力の定着・向上に向けて取り組んでいきます。 基本方針では、「小規模化による教育環境への影響が懸念される地域から順次適正化の取組を実施」と記載しています。 その考え方に基づき、小学校、中学校ともに検討対象の学校が所在している「牛滝の谷地域」と「葛城の谷地域」は、義務教育9年間を通じて小規模化による教育環境への影響が懸念されるため、今回の第1期計画（案）としてお示ししているものです。 中央小学校、浜小学校が含まれる「都市中核地域」においても、第1期計画の完了後に着手するのではなく、具体的な内容がまとまった段階で、第2期計画（案）を策定・公表します。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
98	11/30(火) 浜中央	・適正規模計画については、特に賛成です。市内同一条件も重要な点と思います。 ・小中一貫教育基本方針についても、方針が実現できるなら、がんばっていただきたいと思います。保護者、生徒、児童の心・道徳の向上底上げに期待します。	引き続き、小中学校の適正規模・適正配置や小中一貫教育について、市民の皆様の幅広いご理解が得られるよう、また、子どもたちにより良い教育環境、教育内容が提供できるよう、一層努力してまいります。
99	11/30(火) 浜中央	・単純に合併するのではなく（中央、浜）、適正規模というイメージを、もう少し具体的に、通学区域今後提示いただきたいです。 ・小中一貫・・・同じ中学校へ進学・・・（2点）→これがリンクするのでしょうか？	浜小学校・中央小学校の適正化の具体的方策については現在検討中であり、内容がまとまった段階で、第2期計画（案）として策定・公表し、改めて地域・保護者の皆様に対する説明会や、意見交換の場を設けていきたいと考えています。再編の形態として、小中一貫校なのか否かについても現在のところ未定ですが、中学校区を単位とした、小中一貫教育の取組については「岸和田市小中一貫教育基本方針」に基づき進めていきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
100	12/2(木) 天神山	・教育課題と将来あるべき教育方針は小中一貫の妥当性が見いだせないので反対します。 ・本計画のデメリットを出すべきです。	・小中一貫教育については、これまで全国の自治体や学校現場での先行した取組みが10数年以上にわたって蓄積され、顕著な成果が明らかになってきております。これらの取組みから伺える知見とともに、岸和田市における小中連携教育の取組みの成果もふまえて、小中連携教育を充実・発展させる形で小中一貫教育を進めます。なお、岸和田市児童生徒にとってより良い取組になるよう、小中一貫教育推進会議にて十分に協議を重ねてまいります。 ・次の時代を担うこれからの子どもたちが、将来にわたって「生きる力」を身に付けるためには、小学校の時から、一定の集団規模の中で、多くの友達との対話を通じて、多様な考え方を形成し、深い学びにつなげることが大切であり、そのような教育環境を整える上で、適正規模・適正配置の取組は不可欠であると考えています。一方、計画推進に伴う課題と考えられる通学路の安全性、学校施設の安全性や快適性の確保、今後の地域コミュニティや避難所のあり方等については、今回の説明会においても多くご意見をいただいているところです。これらの諸課題については、今後も地域・保護者の皆様と十分に話し合いを重ね、その解消に努めていきます。
101	12/2(木) 天神山	説明を聞くと良いことばかり話していると思う。小学校1年生から中学3年生までが一緒に学習する時には様々なことが問題になってくると考えられる。それら等の事について、どう進めていけば良いのか不安な面が今後出てくるのではないか。	地域・保護者の皆様が不安に思われる点については、今後も十分に話し合いを重ね、その解消に努めていきます。 なお、小中一貫校の整備にあたっては、例えば、普段学習する普通教室は、小学生と中学生の位置や動線を分けて配置する一方、施設一体型のメリットである異学年の交流については、校舎の中央部分に専用の交流スペースを設けるなど、安全性の確保とともに、児童生徒が快適に過ごすことができるよう工夫してまいります。
102	12/2(木) 天神山	・中学校3年生同士でトラブルがあり、死に至るような事案がありました。ただでさえ怖いのに、小学生に何かあれば対応して頂けるのか。 ・通学路の安全と市は言うが、具体的にはどんな事をしてくれるのか。 ・案はメリットばかりでわかりづらい ・子どもの事なので、何か起こってからでは遅い。起こりうる事を予測して話をしてほしい。 ・思春期である中学生と小学生を同じような校舎で不安。	・小中一貫校である与否を問わず、子どもたちの安全・安心の確保は最優先であり、児童・生徒指導や施設等の安全管理等を徹底してまいります。特に、小中一貫校においては、小中の教職員間の情報の共有や連携を密にします。 ・地域・保護者の皆様と通学路の安全上の検証を十分に行った上で、必要に応じて道路関係部局や警察等とも協議を行い、通学路の見直しやスクールゾーンの設定など、安全確保のための必要な対応を行います。 ・説明会においては、適正規模・適正配置について、課題として通学距離が遠くなること、地域コミュニティに影響することを、また、小中一貫校については、授業時間の違いや体育館、運動場の割り当てなどの課題があると説明してきたところであり、今後とも、地域・保護者の皆様が課題と思われる点についても十分に協議していきます。 ・No2（通番101）の回答のとおり、小中一貫校の整備にあたっては、小中一貫教育の実施に適した安全性の確保を図るとともに、児童生徒が快適に過ごすことができるよう、校舎の配置やレイアウトなど、様々な工夫を行います。
103	12/2(木) 天神山	学校数を減らすことより、若世代（子どもを増やすこと）の方をどのようにしたら増えるのかを考えていく方がよいのでは？このままでは高齢者が増えていくだけなのでは？ 小学1年生と中学3年生と同じ学校は不安があります。体格も違うし、悪いことをマネしないか…。 今、小学校に幼稚園も入っているがなくなったら幼稚園はどうなるの？ 子ども達のことを1番に考えてください。学校見学してみてください。1年間くらい。	①人口の社会増に向け、子育て世代に岸和田市を選択してもらうためには教育環境、教育内容の充実が重要であると考えます。それに向けて、小規模化している学校をそのままに、現在ある学校の数を維持するのではなく、適正規模・適正配置及び小中一貫教育の取組の推進により、さらに魅力ある学校づくりを進めることが必要であると考えています。 また、魅力あるまちづくりを図るための様々な施策については、今後とも市長部局とともに取り組んでいきます。 ②No2（通番101）の回答のとおり、小中一貫校の整備にあたっては、小中一貫教育の実施に適した安全性の確保を図るとともに、児童生徒が快適に過ごすことができるよう、様々な工夫を行います。 ③幼稚園については、「岸和田市立幼稚園及び保育所再編方針【改訂】」に基づき、再編の取組を進めているところですが、小中学校再編に伴い、閉校する小学校に併設する幼稚園については、小学校の閉校と併せて閉園し、新たに幼稚園と保育所の機能を併せ持つ認定こども園が開園する計画です。今後も、双方の計画の整合を取りつつ、連携を取りながら、取組を進めていきたいと考えています。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
104	12/2(木) 天神山	子供がみんな天神山小学校を卒業。母校となります。親も体育館の開放で毎週スポーツをしています。小学校と中学校は成長がちがう。いっしょにしてほしくない。母校がなくなりスポーツをする機会がへる。 小学校と中学校の授業時間もちがう。子供の数がへっても少人数でより学力向上にもよい。避難所にもなる。なくさないでほしい。	①学校は、何よりもまず、子どもたちの教育のためのものであり、そのことを最優先にすべきと考えます。学校開放によるスポーツの場や避難所としての機能については、地域の方々のご意見も踏まえ、閉校後の校地・校舎のあり方も含めて、市長部局と連携して検討してまいります。 ②小学生と中学生の体力差等により問題が生じないよう、教室配置や動線などに配慮してまいります。小中一貫校における授業時間に違いについては、例えば、休憩時間などを調整し、授業開始時間を1日の中で複数統一にすることにより、乗り入れ授業や特別教室などの共同利用を行いやすくするなどの工夫を図ります。 ③学級の少人数化が、学力の向上に効果的であることは教育委員会としても認識しています。一方、今回の適正規模・適正配置の取組は、その学級の規模ではなく、学校全体の児童・生徒数が少ない学校の小規模化によって、多くの教育課題が出ていることから、これ以上先送りできないものとして、計画案をお示ししたものです。
105	12/2(木) 天神山	少子化で少人数で学べるのはすばらしいことです。先日の音楽会も一人一人が力を出しすばらしいものでした。先生が全児童の顔と名前を知っており。子ども達もそれぞれの名前を知り、下の名前（あきら、ちかさ、etc）で呼びあうようなアットホームな環境を大切にしてほしいです。 クラブなど人数が少なくできないのなら修斉と合同でやればよいし、先生の負担が増えるのなら市が独自で増員すればよい。お金をもっと教育にかけてほしい。 小学校のない地域に新しい住民は増えません。もっともっと住民との話し合いを続けて下さい。コロナの中でこのような統合計画は不適切です。 教育委員会の回答は町全体の将来をみすえたものではなく何ひとつ納得できませんでした。	①小規模校だからこそできる取組、小規模校ならではの取組があることは承知しています。一方、文部科学省が示す、新しい学習指導要領では、学校で学んだことを子どもたちの将来につなげていくために、主体的・対話的で深い学びを重視しており、そのため教育委員会としては、集団規模が確保された教育環境の下で、多くの友達をつくり、時には自分と違う多様な考え方に触れる機会をたくさん創ることが大切であると考え、今回の適正規模・適正配置の取組を進めているところです。 ②小規模校にも良いところがある一方、①のとおり、適正規模・適正配置により、教育環境、教育内容を充実していくことのほうが重要であると判断しており、そのために、限られた予算を優先して活用していく方針です。 ③人口の社会増に向け、子育て世代に岸和田市を選択してもらうためには、教育環境、教育内容の充実が重要であると考えます。それに向けて、小規模化している学校をそのままに、現在ある学校の数を維持するのではなく、適正規模・適正配置及び小中一貫教育の取組の推進により魅力ある学校づくりを進めることが必要であると考えています。 ④コロナ感染症対策という緊急的な危機事象と、恒常的・長期的な教育の取組を関連付けることは妥当ではないと考えます。
106	12/2(木) 天神山	・教育委員会への説明会では不十分です。 ・質問に具体的な応えていない。 ・再度開催して下さい。	今後引き続き、市・教育委員会としての考え方を丁寧に説明するとともに、地域・保護者の皆様と十分に話し合いを行います。
107	12/2(木) 天神山	中学校と一緒にするのはなく小学校で校区をかえてやるのはどうでしょうか。たとえば天神山小へ神須屋町や土生町の子たちを通学させるとか。天神山小から小1、小2が葛中へ通学するのは遠いし、あぶないです！ 中学と小学校を一緒にすれば時間も違うのにチャイムとかどうするんですか？	①第1期計画（案）の策定にあたっては、集団規模の確保だけではなく、通学距離・時間等の地理的条件や、地域コミュニティ等を総合的に判断し、既存の中学校校区を単位とした再編案をお示ししているところです。 ②安心・安全な通学環境の整備は教育委員会としての責務であると考えます。地域・保護者の皆様と通学路の安全上の検証を十分に行った上で、必要な対応を適切に行います。 ③チャイムについて、先進事例では小中ともに45分授業にし、中学校では朝学習と金曜日の6限以後に30分の授業を行うことで年間授業時間を確保している、中学校ではノーチャイムの運営をしている、休憩時間などを調整し、授業開始時間を統一するなどといった取組があることから、それらを参考にしつつ、学校運営面での工夫を図ります。
108	12/2(木) 天神山	こちら側のなっとくいく返答がなく残念です。	今後引き続き、教育委員会としての考え方を丁寧に説明するとともに、地域・保護者の皆様と十分な話し合いを行います。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
109	12/2(木) 天神山	・一貫校は決定ですか？ ・小1～中3では、性の知識に差がありすぎる ・葛中への通学路が小学生にしては大変。 ・跡地の予定は？ ・人の集まる物にしてほしい。（住宅・商業施設など） ・老人ホーム・そうぎ屋はNG。（土地さがる） ・廃校にするのではなく、人の集まる様な開発をしたらどうですか？それなら大賛成です。	・現在は実施計画（案）であり、今後も丁寧な説明と話し合いを重ね、より良い計画を策定していきます。 ・小中両方の職員が児童生徒を9年間見守り、育てることで、発達段階に応じたきめ細やかな指導が可能となります。発達の差にも十分に留意しながら、児童・生徒の指導を行います。 ・安心・安全な通学環境の整備は教育委員会としての責務であると考えます。地域・保護者の皆様と通学路の安全上の検証を十分に行った上で、必要な対応を適切に行います。 ・学校跡地については、地域の皆様のご意見も踏まえ、幅広い視点から有効に活用される方策を検討します。 ・魅力あるまちづくりを図るための様々な施策については、今後も市長部局とともに取り組んでいきます。
110	12/2(木) 天神山	今後意見をきいていただく機会は。町会や市民協でなく、直接住民の声をきいてもらえるような場をもってほしいです。	今後も引き続き、教育委員会としての考え方を丁寧に説明するとともに、地域・保護者の皆様と十分に話し合いを行います。
111	12/2(木) 天神山	全て市の財政につながっている気がする。予算あり気ではないのですか。子供を中心に検討されいない。	今回の取組は、市全体の児童生徒数の減少が進む中、次の時代を担う子どもたちによってより良い教育環境の整備と、学校教育の充実を図ることを主目的としています。 今後も、これからの児童生徒のより良い教育環境を最優先に考え、適正規模・適正配置の取組を進めます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
112	12/3(金) 山滝	0～15才までが同敷地内で就業できるとは思いません。赤ちゃんがなくなると受検勉強ができますか？小・中とでは授業時間もちがいます。これでは、勉学に集中できません。 ・スクールバスは、タクシーのように乗りたいときに乗れますか？ ・この地域から若い世代の人がいなくなると思います。 ・中1ギャップ！では高校、大学、社会人、それはどうなりますか？	①同一敷地の整備であっても、建物やフロアの区別により、就学前児童、小学生、中学生が、支障なく学び、快適に過ごすことができるよう、設計段階から様々な工夫を図ります。 ②社会生活を送っていく上で、決められた時間を守るのは基本的なルールであり、そのことを身につけさせるのも、教育の一環だと考えます。スクールバス等の運行時間、ルート、乗降場所等の具体的な運用については、今後地域・保護者の皆様のご意見も踏まえつつ決定していきます。 ③市域全体の教育環境、教育内容の充実を図ることで、子育て世代に市域に住んでもらえることにつながると考えています。 ④小中一貫教育の実践により、義務教育9年間の系統性と連続性に配慮した教育活動を展開することで、「確かな学力」の定着・向上や、小学校から中学校への移行期において環境変化に適応できなくなることによる諸課題、いわゆる「中1ギャップ」の解消が期待できます。
113	12/3(金) 山滝	ホームページでは見ない人もある。別の方法も考えるべきである。 ・小中一貫校を推進するのであれば、キャバをもっと大きく取るべきである。 ・災害がおこった時は、学校は大切である。 ・英会話・プロムラミングを教える人材（先生）は確保についてどう考えていますか？ 役所の人は人の意見をもっと態度を改めて聞くべき。聞く態度がなってない！！	①小中一貫校の設置にあたっては、国の基準による面積基準等を適切に満たすとともに、児童生徒が安心・安全に過ごすことができる環境整備を図ります。 ②学校は避難所としての機能も果たしてきたことから、地域の防災機能が低下することのないよう、市長部局と連携し対応していきます。 ③教職員の配置については、国や府の基準に基づき、適切に配置します。
114	12/3(金) 山滝	中1ギャップの解消のために小中一貫校が最適というように受けとられるが、そもそも中1ギャップとはどういうものか？全国的に見れば小・中別（たとえ小規模校であっても）が一般的でそれが学力につながるとは思えないですむしろ小学校は小学校の、中学校は中学校の専門性を生かしてひとりひとりにきめ細かい指導をすることが学力向上につながると思います。 とにかく子どもの数をふやせば（幼児から中学生まで集まれば交流が深まる）というのは安易で無謀な考えです。 多様性が言われる昨今、ひとりひとりにあった支援指導、その年齢なりの活動や成長を大切にしなければ「人」としての教育が成り立たないと思います 人口減少が子どもの減少をうむのは当然。今後は人口をふやす方策を市役所内の各課連携で考えていただきたい→連携、連携と言うわりには市役所内の各課連携が一番できていないのではないかな 本当の意味での先進的な地域の特色を生かしたとりくみを包括的に計画していただきたい IT化が進んで（もっと進めていける）ので対人的集団の必要性が問われます	中一ギャップとは、子どもたちが小学校から中学校への進学に際して、新しい環境での学習や生活に不適應を起こすものとされています。小中の段差で生じる学力課題は、小学校の学びと中学校の学びの段差によるもの大きいと考えております。小学校の学びが、中学校のどの学びにつながるか。小学校の教員と中学校の教員が、そのつながりを理解したうえで学習指導を行うことにより、児童生徒の理解を促すことができます。これまでも、小中連携教育の中で小中のつながりを意識した学習指導は行われていますが、小中一貫教育を進めることでより強化して行うことが可能となります。 この小中一貫教育については、施設一体型小中一貫校のみで行うものではなく、小学校と中学校がそれぞれ独立してある校区においても実施するものです。したがって、学力向上＝小中一貫校という考えではありません。 「岸和田市教育大綱」等に基づき、児童生徒一人ひとりに応じた学習については、適正規模・適正配置の取組と並行し、市全体の施策として取り組んできます。また、魅力あるまちづくりを図るための様々な施策についても、市長部局とともに取り組みます。 なお、岸和田市では、人口を増やす取組として、企業誘致や観光振興などを進めてきたところであり、今回の小中学校の適正規模・適正配置や小中一貫教育の推進も、岸和田市の教育を充実することで、子育て世代の定住を促進する人口増の取組の一環という性格を有有していると考えています。
115	12/3(金) 山滝	小中一貫教育では、「小中一体型」や「小中隣接型」が望ましいというエビデンスはあるのか	小中一貫教育における主な取組として、教員の相互乗り入れ指導や、児童生徒相互の交流活動が挙げられます。こうした取組を実施する上で、同一敷地もしくは隣接地に小・中学校が立地している方が、物理的な距離が近いことで、必然的に児童・生徒や教員の負担がより少なく、時間を有効に活用できることとなります。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
116	12/3(金) 山滝	小中一貫教育では、「小中一体型」や「小中隣接型」が望ましいとのことだが、今回の第一期案では、「小中隣接型」でなく、なぜ「小中一体型」を採用したのか	施設一体型もしくは施設隣接型が望ましいと考える理由は番号4の回答のとおりです。 （仮称）山滝小中一貫校及び（仮称）葛城小中一貫校においては、今回の再編によっても、なお、適正な学校規模には達しないところ、小中を合わせて一定の集団規模を確保することで、多様な意見に触れ、より幅広い人と交流できる機会等を持てること、また、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案した結果、施設一体型での整備が教育上望ましいと考えたものです。 なお、（仮称）山直小学校に関しては、隣接する山直中学校と、施設隣接型の小中一貫教育を行う案となっております。
117	12/3(金) 山滝	小規模校ほど学力が高いというエビデンスは聞くが、施設一体型の小中一貫校にすれば学力が上がるというエビデンスはあるのか	【令和4年1月12日更新】 全国における施設一体型小中一貫校及び義務教育学校の数をみると、平成29年度時点で107校であったものが、令和2年度時点では215校と倍増しており、今後も増加していく見込みとなっております。さらに、小・中学校の区分を取り払い、9年間を通じた一貫教育を行う義務教育学校のうち、約86%が施設一体型の施設形態であるなど、施設一体型小中一貫校・義務教育学校における実績は着実に積み上げられているものと認識しています。（文部科学省「学校基本調査」より）
118	12/3(金) 山滝	小規模校ほど不登校・いじめ・問題行動が少ないというエビデンスは聞くが、施設一体型の小中一貫校にすれば不登校・いじめ・問題行動が少なくなるというエビデンスはあるのか	また、小中一貫教育を実施している市町村の調査では、学習意欲が向上したが80%、中学校への進学に不安を覚える児童が減少したが96%、いじめが原因である問題が減少したが73%、不登校が減少したが60%など、小中一貫教育に成果があると回答しています。（文部科学省「小中一貫教育の導入状況調査について」より）
119	12/3(金) 山滝	施設一体型の小中一貫校にすれば中一ギャップ解消に効果があるというエビデンスはあるのか	なお、施設一体型小中一貫校に特化した国における学力や問題行動等の調査結果は示されていませんが、視察に伺った施設一体型小中一貫校では、実際に全国学力学習状況調査における正答率が、全国の平均正答率を大きく上回ったという成果等も伺っています。
120	12/3(金) 山滝	こんな大きな改革を行うのに、現場の教員の声を聞いたのか。特に、7つの小学校を廃止して小中一貫校を作るということについて意見を聞いたのか。	令和2年3月の「岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針」の策定に先立ち、教職員、児童生徒、保護者を対象とした適正な学校規模に関するアンケート調査を行い、対象者の大多数から、小・中学校ともに12～18学級が望ましいという回答を得ています。 今回の実施計画（案）は、この「岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針」の考え方を基に策定したものであり、また、国が推進する小中一貫教育や小中一貫校の導入は、教育委員会がその責任と判断の下に計画するものであり、現場教員の意見を基にすべきものとは考えておりません。
121	12/3(金) 山滝	「小規模校には課題がある」という立場にたてば、際限のない統廃合の悪循環に陥ると思うがどう考えるか。 日本社会は、政府が有効な対策を打ってこなかったため、人口減少が著しく進んでいる。政府は2050年に人口は5000万人になると推計しているが、現状は政府の予想以上に少子化が進行し、このままでは、2050年には5000万を大きく下回る事が確実な状況となっている。 現在の山滝小学校の在籍生徒数は88人だが、統廃合を行っても10年後には89人と推計されている。そうなれば再度の統廃合が必要になってくるがどう考えるか。	適正化の取組を実施しても、今後、さらに児童生徒数が減少するなどして、例えば複式学級が見えてくるといった状況になれば、さらなる再編の必要性が出てまいります。その際には、各学校の規模だけでなく、市全体を見た配置バランスや通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案して、実施の是非を判断することとなります。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
122	12/3(金) 山滝	今回の案は、学校の小規模化による課題をいくつかあげているが、小規模化のメリットを全く列挙していない。今回の案によって小規模化のメリットが失われると思われるがどう考えるか。 1988年に国立教育政策研究所（当時）は、小学校のへき地校と非へき地校を対象に総合的・体系的な調査をおこない、へき地校のメリットとして次の5点をあげています。 ①小規模で教員一人当たりの児童数は、非へき地校の半分以下であること ②不登校が少ないこと ③授業中に質問や発表の機会が多く、役割や責任を果たす機会が多く、自主的・協力的な態度の育成が容易であること ④教師と児童との緊密度が高いこと ⑤児童一人ひとりに対するきめ細かい指導や全人的な児童理解が容易である。 この指摘は現在も大きな相違はないと言われています。不登校の出現率やいじめの発生率は大都市部や大規模校では増加傾向にあり、その差は拡大しています。 又、秋田県は、全国に先駆けて19年前に小人数学級を取り入れ、現在では、学力は全国トップクラスです。その秋田県の中でも小規模校ほど学力が高いと言われています。 岸和田市においても、最も小規模の山滝小学校と東葛城小学校の学力テストでの学力は岸和田の他校と比較して高いと言われています。 これらのことから言えることは、小規模校ほど一人ひとりに行き届いた教育で学力が高まり、いじめや不登校の解消に効果があることを示しています。この小規模校のメリットを失わせてよいのでしょうか。	小規模校ならではの取組や優位性があることは承知していますが、子どもたちには、成人するまで、また、成人した後、限られた少人数の環境が保障されるものではありません。教育委員会としては、義務教育9年間の学校生活の中で、子どもたちが身に付けた力が、将来社会に出た時も、たくましく、生きる力につながるものが何よりも大切であると考えており、そのためには小・中学校の段階から、集団規模が確保された教育環境の下で、多くの友達をつくり、時には自分と違う多様な考え方に触れ、時には意見を闘わせながら、ともに協力して課題を解決していく力をつけることが大切であると考えます。小規模校のメリットよりも、適正規模・適正配置の取組を進める必要性の方が大きいと考えています。 子どもたちの学力は、学校教育だけでなく、家庭や地域の状況などにも影響を受けるものであり、学力テストの結果を見ても、学校の規模だけで、その優劣が決まるとは考えておりません。 児童生徒一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな学習指導が行いやすいといったメリットについては、学校全体の児童数の多い少ない「学校規模」ではなく、実際に日々の授業が行われる1クラス当たりの児童数の多い少ない「学級規模」の影響を大きく受けるものと考えます。教育委員会としても「学級規模」の少人数化は、よりきめ細かな教育指導が期待され、高い学習効果が期待されることから、望ましいものと考えており、国や府に対して、その推進を働きかけているところです。
123	12/3(金) 山滝	今回の案では、施設一体型の小中一貫校のデメリットが検証されていません。 小中一貫校が実施されているところではいろんなデメリットが指摘されていますが、特に大きいのは、①新たに小六年生問題が発生してくること（最高学年という自覚と責任が持ちにくく「自信」が育ちにくい） ②教員の仕事量の増大（発達段階の違う児童を一つの学校にまとめたため、いろいろな調整が必要になる） ③発達段階の違いからくる、同じ場所（運動場や体育館、図書館など）での活動や、行事（運動会や文化祭など）がやりにくなる などなどが指摘されています。こういうデメリットを検証し、どう克服するかなしに計画を進めるべきではないと思いますがどう考えますか。	①最高学年という自覚と責任が持ちにくく自信が育たないという点については、まず、義務教育学校でない限り、施設一体型小中一貫校であっても小学校と中学校は併設されて、それぞれが独立して存在しますので、お示しのようなことはありません。また、義務教育学校であっても、9年間を4-3-2や5-4に分けて、それぞれの区切りに儀式や行事を行うことで、児童・生徒に発達の自覚を促す取り組みが進められています。 ②教員の仕事量の増大という点については、小中一貫校とすることで、物理的、時間的により効率的・効果的に小中一貫教育が推進でき、教員の負担軽減につながるものと考えています。 ③発達段階の違いから同じ場所での活動や行事がやりにくくなるとの点については、分ける必要がある場合は場所や時間を工夫することで対応します。また、文部科学省は、学校行事での異学年交流、例えば、小中合同による体育祭や文化祭などは、小・中学校双方の児童・生徒にとって、大きな成長の機会となり得るとしています。
124	12/3(金) 山滝	山滝認定こども園。山滝小中一貫校の施設イメージについて ①新築校舎は、中学生、小学生、幼稚園児のいずれを対象にした校舎か ②改修校舎は、どんな改修を想定していて、中学生、小学生、幼稚園児のいずれを対象にした校舎か ③運動場と体育館は、現在の運動場と体育館で小・中・幼とも対応するのか	当日資料でお示した施設イメージ図については、あくまでも現段階におけるイメージです。具体的な校舎のレイアウト等については、今後、地域や保護者の皆様のご意見を十分に伺うとともに、（仮称）学校開校準備委員会での議論を重ねながら、設計段階において決定します。 なお、同一敷地の整備であっても、建物やフロアの区別により、就学前児童、小学生、中学生が、支障なく快適に過ごすことができるよう、設計段階から様々な工夫を図ります。 また、現在の山滝中学校に（仮称）山滝小中一貫校を設置する場合、想定しているグラウンド面積も国基準をクリアしていますが、さらに拡充できるよう、利用率の減少と老朽化が課題となっている山滝プールや、現案において閉校予定の山滝小学校について、地域の皆様のご意見も伺いながら、活用を検討します。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
125	12/4(土) 常盤	よくわかりました。	ご意見として承ります。
126	12/4(土) 常盤	門前町区の校区変更について、町会長から意見書の提出がありました。今後の検討とするとのことでありましたが、検討内容については、逐一の情報開示及び住民説明をお願いします。	地域・保護者の皆様からいただいたご意見等の内容や、議論の進捗状況及び教育委員会としての考え方については、市のホームページ等を通して随時公表するとともに、丁寧な説明を行います。
127	12/4(土) 常盤	24ページの、表の、児童数ですが、この数字は、令和3年のものですね。小中一貫にする頃には、中学にあがり、中学の生徒は卒業してますよ。そして、門前町2丁目の、新こう住宅地も、子供さんたちは、大きくなり、たぶん、小中一貫校の人数もまた減少していくでしょう。 ならば、門前をわざわざ修斉地域に入れなくても、常盤校区でいいじゃないですか？歴史を変えることは門前町民として反対です。	第1期計画（案）の策定にあたっては、集団規模の確保だけではなく、通学距離・時間等の地理的条件や、地域コミュニティ等を総合的に判断し、既存の中学校区を単位とした再編案をお示ししているところです。常盤校区（門前町）については、市全体の学校規模のバランスや、通学環境を考慮し、門前町における通学区域の見直しをお示ししているところです。 今後も引き続き、教育委員会としての考え方を丁寧に説明するとともに、地域・保護者の皆様と十分な話し合いを行います。
128	12/4(土) 常盤	門前町では全町会員を対象に本年8月、市から示された通学区域の見直しについてアンケート調査を実施し、その結果を全町会員に配布すると共に10月21日付で市教育委員会へ提出したものです。 調査結果は、これまでの通学区域でよいとする家庭が多数となっており、計画の検討を求めたものです。これに対する回答をお願いします。	門前町々会様からのアンケート調査結果については、現在市のホームページでも公開しています。今後は、この調査結果のほか、地域説明会でいただいたご意見、メール等でいただいたご意見等を踏まえ、地域・保護者の皆様と十分な話し合いを行います。
129	12/4(土) 常盤	まず私の考えは地域コミュニティが大切だ考えるので、門前町だけときわ校区から切りはなされることについて反対です。門前町は人数あわせだと考えていますが、P.24にあるようにR3では187人もの子どもがいるようですが、例えばR12になれば今の小学1年生は中学校すら卒業してしまいます。この見積りはあますぎないでしょうか？門前町は人数あわせにす らならなくなり無駄に地域コミュニティをこわすだけになるのではないのでしょうか？	第1期計画（案）の策定にあたっては、集団規模の確保だけではなく、通学距離・時間等の地理的条件や、地域コミュニティ等を総合的に判断し、既存の中学校区を単位とした再編案をお示ししているところです。常盤校区（門前町）については、市全体の学校規模のバランスや、通学環境を考慮し、門前町における通学区域の見直しをお示ししているところです。 地域コミュニティのあり方については、学校再編に合わせて、行政が活動単位を変更するのではなく、地域の皆様が主体的に判断されるものと認識していますが、活動場所の確保等の様々な支援については、市長部局と一体となって対応していきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
130	12/7(火) 東葛城	私は、この小学校の卒業生ですが、少人数でこそ得られたものが多々あると考えています。学級が少ないことで、将来たくましく生きることには弊害があるかのような説明でしたが、私は、これが良かったと思います。社会へ出ると、個性がとても重要視されますが、人数の多い学校等では、まわりに合わせる協調性を教えられます。この学校では、人数が少ないからこそ、それぞれの個性が輝いていたと思います。 また、この学校は、地域との交流が盛んですが、近くに小学校がなくなってしまうと近くにすむ住民の活気がなくなってしまうのではないかと思います。私たち卒業生も母校がなくなることをとて悲しく、さみしく思います。もう少し考えていただけると幸いです。	これまで、東葛城小学校が地域の方々に支えられ、子どもたちの成長を見守っていただいたことについては感謝申し上げます。また、母校の開校案をお示ししていることについて、卒業生の方が心配されるお気持ちはよくわかります。 今回の小・中学校の適正規模・適正配置は、市全体の児童生徒の数が今後も減少すると見込まれる中、次の時代を担うこれからの子どもたちが、将来にわたってより良い教育環境の下で、充実した学校教育を受けることができるよう、取組を進めているもので、そのためには、今ある学校の数を今後もそのまま残すのではなく、一定の集団規模を確保し、バランスの取れた学校配置にしていくことが大切であると考えています。 子どもたちは、豊かな個性を育むとともに、社会の一員として他者と協調しながら、より良い生活を送っていくことが必要であり、市内の子どもたちが等しく、そのような力を身につけられるよう、教育の充実に取り組んでまいります。
131	12/7(火) 東葛城	・クラスの数が増えたら教師1人にかかる負担が今よりも大きくなると思います。 ・中学生と小学生が交流はできて中学生からしたら小1などを相手にするのはちょっとしんどいと思います。 ・小・中一貫校をつくる計画をたてる前に小学校をつぶしていいかの会議をしてほしい。勝手に学校をつぶすほうこうですめないでほしい。 ・人数がすくなかったら普通の友達よりも固い絆でむすびつくことができるので人数を多くしたらこのような関係をつくりにくいと思います。	・教職員の配置については、国や府の基準に基づき、各学校における学級数に応じて大阪府から配置されるため、学級数が増えると、その分配置される教職員の数も増える仕組みとなっています。それによって、いわゆるスケールメリットが働き、学校行事の計画・調整や学校全体の事務処理がより多くの教員で分担できたり、他の教員と授業の計画を立て、共有できたりすることで、教員一人当たりの負担が軽減します。 ・先進事例では、小中一貫教育の導入によって、中学生が小学生の手本になろうとする意識が高まったとの成果が報告されています。 ・今回は、教育委員会が策定した、実施計画（案）の内容を市民の皆様にお伝えすべく、各校区において計20回の説明会を開催しました。今後も引き続き、地域・保護者の皆様を話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。 ・小規模校では、ご意見にあるメリットもある一方で、多くの様々な意見に触れる機会や、集団による学習活動が限られるといった課題があると考えます。
132	12/7(火) 東葛城	小規模の学校だから、地域の人と触れ合うこともできるし、小中一貫にしてのメリットにあまり魅力も感じられない。もっと小規模の良さを尊重してほしい。	小規模校だからこそできる取組、小規模校ならではの取組があることは承知しています。しかしながら、教育委員会としては、義務教育9年間の学校生活の中で子どもたちが身に付けた力が、将来社会に出た時も、たくましく、生きる力につながるものが何よりも大切であると考えており、そのためには小・中学校の段階から、集団規模が確保された教育環境の下で、多くの友達をつくり、時には自分と違う多様な考え方に触れることが大切であると考えます。岸和田市の子どもたちに、将来にわたってより良い教育環境、教育内容を保障していく上で、小規模校のメリットよりも、このような適正規模・適正配置の必要性の方が大きいと判断し、今回の計画案をお示したものです。 小中一貫校を含む小中一貫教育については、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。文部科学省の調査では、H26年とH29年の調査ともに、導入済みの自治体のうち、95%を超える割合で大きな成果が認められる、または成果が認められるとの回答があり、教育的効果が期待できると考えています。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」において必要な対応について引き続き検討します。
133	12/7(火) 東葛城	人数が増えて、学校行事の規模が大きくなったとしても、参加しない生徒もたくさんでてきて、内容としては変わらないと思います。 スクールバスが出なかった場合の通学の方法は。グラウンドを使う授業はちゃんとできるのか。 休み時間のグラウンドの使用	教育の一環として行う学校行事は、全員参加が原則です。 スクールバス対象外の地域の通学手段は、徒歩及び自転車による通学になるものと考えています。スクールバスの導入範囲については、地域・保護者の皆様のご意見も踏まえつつ、他地域との均衡にも配慮しながら、決定していきます。なお、徒歩による通学の場合も、検証を十分に行之い、道路関係部局や警察等とも連携して、必要な安全対策を行います。 グラウンド使用については、先進事例を参考に、児童生徒の安全面に十分配慮し、使用スペースや使用時間を区別する等によって対応します。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
134	12/7(火) 東葛城	人数が少ない方が、生徒の面倒を一人一人見れる。	児童生徒一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな学習指導が行いやすいといったメリットについては、学校全体の児童数の多い少ない(学校規模)ではなく、実際に日々の授業が行われる1クラス当たりの児童数の多い少ない(学級規模)の影響を大きく受けるものと考えます。教育委員会としても「学級規模」の少人数化は、よりきめ細やかな教育指導が期待され、高い学習効果が期待されることから、望ましいものと考えており、国や府に対して、その推進を働きかけているところです。 一方、今回の適正規模・適正配置については、学年全体及び学校全体の集団規模(学校規模)の確保を目的としております。小規模校のメリットについても承知していますが、教育委員会としては、そのメリットよりも適正規模・適正配置の取組の必要性の方が大きいと考えています。
135	12/7(火) 東葛城	こんな少なくなくても、解決できてないのに多したら、もっと解決できらんやろうし、そもそも、母校をこわされるのは、いや。米作とか出来るのはこの人数だから出来る事であって、増えたら出来ない事！ 昔から歴史をこわす事をやめてほしい。少ないからこそ、出来る事をつぶすのは、全対するな東葛かその他の小、中をこわすような事をしたら自分の母校をこわすのは絶対はんたい！	母校の閉校案をお示ししていることについて、卒業生の方が反対されるお気持ちはよくわかります。 またこれまで、歴史ある東葛城小学校が、地域の皆様に支えられ、育てていただいたことに感謝申し上げます。 今回の小中学校の適正規模・適正配置は、市全体の児童生徒の数が今後も減少すると見込まれる中、次の時代を担うこれから子どもたちが、将来にわたってより良い教育環境の下で、充実した学校教育を受けることができるよう、取組を進めているもので、そのためには、今ある学校の数をも今後そのまま残すのではなく、一定の集団規模を確保した上で、バランスの取れた学校配置にしていくことが大切であると考えています。 東葛城小学校の歴史や伝統については十分理解しますが、教育委員会としては、これからの未来を生きる子どもたちのより良い教育環境を最優先に考え、適正規模・適正配置の取組を進める必要があると考えています。
136	12/7(火) 東葛城	東葛城小学校の卒業生です。 多くの楽しい思い出がありました。 バースデイ給食や田植え体験などの東葛城小学校だからできるものは、小中一貫校になったとしてもこのしてほしいと思いました。 小学校生活6年間で大きなケンカやいじめなどがなく、とても過ごしやすかったです。	東葛城小学校の教育活動はじめ、これまで、各学校が児童生徒の豊かな心を育むために実践してきた特色ある教育活動については、再編後の学校においても、引き続き積極的に取り入れていきます。
137	12/7(火) 東葛城	すべての市民につたえて下さい。	計画案の内容や、地域・保護者の皆様からいただいたご意見等、議論の進捗状況及び教育委員会としての考え方は、市のホームページ等を通して随時公表し、広く市民の皆様に周知してまいります。
138	12/7(火) 東葛城	各種問題点の最終対応案が決まった時の賛否であるが、回答としては、予算化が必要であり「議会で審議・賛否を図る」とのことであったが、私の要望は、地域住民による賛否をはかっていただきたい。	実施計画(案)の成案化に向けて、今後も地域・保護者の皆様と十分な話し合いを行います。その上で、市と教育委員会が最適と考える実施計画としてとりまとめ、関連する議案を市議会においてご審議いただき決定していきます。

通番	日付・校区	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
139	12/10(金) 山直北	色々えらそうな事を言ってますみませんでした。 岸和田の特徴を活かせる用な教育を。 子どもたちが増える街にしてほしいです。 意見や思いを聞いていただき、ありがとうございました。	子どもたちのより良い教育環境の整備と学校教育の充実のために、今後も様々な施策に取り組みます。
140	12/10(金) 山直北	・地域にあったものがなくなる、地域を構成するものが1つかけて、その世代が昼間の時間からいなくなるのはさびしいですね。 ・小学校は統合され、その後の場所は具体的に何に使うんですか？たたき台だからまだ考えてないのですか？	学校は、教育施設としてだけではなく、防災や地域コミュニティの拠点としての役割を果たしてきたことから、適正化により使用しなくなる学校施設は、今後、地域の方々のご意見も踏まえ、幅広い視点から有効に活用される方策を検討します。
141	12/10(金) 山直北	・適正化の説明はありますが、デメリット予測されているのでしょうか。説明するなら両面が必要だと思います。 ・校区が拡大されること登下校時間がのび、通学時のリスクが増えます。地域の見守りも減ります。スクールバスを導入すれば費用負担が発生します。税金が投入されるため既に試算はされているはずです。示してほしいです。住所地により不公平感が出ると考えられ、コース設定についても住民の意見は反映させてもらいたいです。意見を聴く場を設けて下さい。 ・スクールバス、自転車等の利用には家庭の負担も大きくなります。 ・支援が必要な子どもへの配慮、保護者への適切な支援ができるよう教員配置して下さい。 ・コロナ等感染対策を行う意味でも山直北小学校は大規模化させすぎなのではと思います。 ・小中一貫校のメリットが本当に岸和田市でも活かせるのか、本当に一貫化することでいじめや不登校といった現存の課題にメリットがあるのか疑問です。 ・子育てしやすい町岸和田をうたっているのに地域から学校を減らすのは矛盾しています。地域活性化のための人口流入が見込めず未来に希望のない地域づくりになってしまうと思う。 ・学校舎の建替や増築に追われながら、マンモス校で卒業していく子どもたちは不遇すぎると思います。 ・「意見を参考にする」と言うだけで計画どおりに進めるのはやめて下さい。	・学校の再編により、通学環境や学習環境に変化が生じることは必然であり、また、地域のコミュニティ活動の場や避難所機能にも影響が及ぶため、地域・保護者の皆様が様々なことについて不安に思われることについては理解いたします。良好な通学環境及び学習環境を保障することは教育委員会の責務であり、適正化の際に必要な対策を適切に講じるとともに、地域コミュニティや避難所機能のあり方についても、市長部局とともに適切に対応していきます。その他、地域・保護者の皆様が不安に思われる点については十分にお伺いし、その解消に努めていきます。なお、スクールバスの具体的な運用については、他の地域との均衡にも配慮しながら、今後、（仮称）学校開校準備委員会等において、地域・保護者の皆様のご意見も踏まえつつ、決定していきます。スクールバスの費用については、他市の事例では、1台につき年間約700万円～800万円程度であることを確認しています。 ・支援が必要な児童生徒については、適正化後も助職員・支援員の配置を進めるとともに、切れ目のない一貫した支援を行います。 ・新型コロナウイルス感染症の感染リスクについて、学校規模の大小が相関しているといったエビデンスは確認されていません。感染対策については、学校の規模に関わらず、すべての学校において、国や府のガイドラインに基づき、今後も適切に対応していきます。 ・小中一貫校における効果的な小中一貫教育の取組については、今後も他市の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」において、引き続き検討していきます。 ・子育てしやすい町岸和田をうたっているのに地域から学校を減らすのは矛盾しているのではというご意見について、子育て世代に岸和田市を選択してもらうには、教育環境や保育環境の充実が重要であることは多くの皆様が賛同するところだと考えます。その一方、市民の皆様には様々な考え方があり、それぞれの立場、学校との関係、地域との関係がある中で、教育環境や保育環境の充実策について意見が分かれるのは当然のことだと考えます。教育委員会としては、児童生徒の減少が今後も見込まれる中、現在ある学校の数そのまま維持するのではなく、児童生徒の集団規模が確保された教育環境の整備をすることが魅力ある学校づくりにつながるものと考えており、そのためには、適正規模・適正配置の取組は不可欠であると考えています。 今後も、地域・保護者の皆様と十分な説明を話し合いを重ね、より良い計画の策定に努めていきます。